

第4期中期目標期間実績補足資料 (平成28～令和元年度)

目 次

I 政策体系における法人の位置づけ及び役割

II 中期目標の期間

III 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究, 協力事業等の実施

IV 業務運営の効率化に関する事項

1. 業務改善の取組
2. 業務の電子化
3. 予算執行の効率化

V 財務内容の改善に関する事項

1. 自己収入拡大への取組
2. 固定的経費の節減
3. 決算情報・セグメント情報の充実等
4. 保有資産の処分

VI その他業務運営に関する事項

1. 内部統制
2. その他

I 政策体系における法人の位置づけ及び役割

我が国は、諸外国を魅了する有形・無形の文化財を有しているとともに、多くの人が地域に根付いた伝統行事に参加するなど、世界に誇るべき文化・伝統があり、これを維持、継承、発展させることはもとより、日本人自身がその価値を十分に認識した上で、国内外へ更に発信していくことが求められている。

他方、人口減少社会の到来とともに、過疎化、少子高齢化、単身世帯の増加等が更に進み、地域コミュニティが衰退し、文化芸術の担い手も不足する恐れが指摘されている。

このような諸課題を乗り越え、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020年東京大会」という。）に向けて、我が国の文化財や伝統等の価値を世界へ発信するとともに、文化芸術が生み出す社会への波及効果を生かして、成熟社会に適合した新たな社会モデルの構築につなげていくことが重要である。

こうした状況認識の下、今後概ね6年間（平成27年度～平成32年度）を見通した「文化芸術の振興に関する基本的な方針」を平成27年5月22日に閣議決定しており、文化財機構は、我が国の博物館並びに文化財研究に関するナショナルセンターとして、有形文化財（美術工芸品）の保護並びに文化財に関する専門的又は技術的事項に関する調査研究等において、中核的な役割を担うことが求められる。

このため、平成28年度から始まる中期目標期間における文化財機構のミッションは以下のとおりとする。

- 第一に、国民共有の貴重な財産である有形文化財（美術工芸品）を収集・保管・展示等する国立の博物館として、これらの保護に貢献するため、国宝・重要文化財のほか、散逸、海外流出、滅失毀損等の損失を防ぐべき価値の高いものに着目し、その収集活動を行うこととする。
- 第二に、購入や受寄した有形文化財（美術工芸品）を適切に管理し、これに関する調査研究を行い、展覧事業等において、蓄積した幅広い研究成果を示すこととする。
- 第三に、文化財に関する専門的、技術的事項に関する唯一の国立研究機関として、文化財に係る新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究を継続的に行うとともに、科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究を行い、その成果をもって官公庁、博物館等の専門機関、文化財の所有者・管理者・修理技術者等が行う業務の質的向上に寄与することとする。
- 第四に、有形・無形の文化遺産に係る国際協働・協力に貢献する専門的機関として、国際条約等に基づく活動を積極的に推進することとする。

II 中期目標の期間

平成28年4月1日から令和3年3月31日

III 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

- (1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

中期目標

- ① 国立博物館の施設設備の整備
 - ・施設設備の点検・診断の結果に基づき、必要な対策を適切な時期に、着実かつ効率的に実施するとともに、これらの取組を通じて得られた施設の状況や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を構築し、継続的に発展させていくこと。
 - ・東京国立博物館の本館及び表慶館、京都国立博物館の本館並びに奈良国立博物館の本館は、有形文化財（美術工芸品）の収蔵・展示施設であると同時に、建物自体が重要文化財であることを考慮し、適切な保存を図りながら活用を図ること。
- ② 有形文化財（美術工芸品）の収集等
 - ・国立博物館は、中期目標の期間における有形文化財（美術工芸品）の収集に関する方針を、自らの調査研究の成果に基づき策定し、互いに情報を共有しながら購入を進めること。また、寄贈の申出があった場合は、同様に調査研究の成果に基づき、適切に取り扱うこと。
 - ・他の所有者からの国宝・重要文化財の寄託については、文化財保護法（昭和二十五年法律第二百四十四号）第48条による文化庁長官による公開（勧告・承認出品）又は同法第53条による所有者以外による公開（公開承認施設における公開）のための役割を担っていることに留意し、適切に取り扱うこと。
- ③ 有形文化財（美術工芸品）の管理・保存・修理等

- ・有形文化財（美術工芸品）の状態に応じて、収蔵施設の収容率、温湿度等の環境を一定の基準で管理し、必要に応じて改善等の措置に要する予算等の計画を策定すること。
- ・収蔵品等の管理に必要なデータの整備（画像データ、テキストデータ等）を進めること。
- ・国立博物館は、有形文化財（美術工芸品）の状態に応じた修理等方針を策定し、計画的に修理等を行うこと。

中期計画

① 博物館の施設設備の整備

施設設備の点検・診断を実施し、その結果に基づき、収蔵・展示施設の老朽化、耐震対策及びセキュリティの強化に計画的に取り組む。これらの取組を通じて得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用するという「メンテナンスサイクル」を平成32年度までに構築し、継続的に発展させる。

②有形文化財の収集等

1)有形文化財の収集

体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各博物館の収集方針に沿って、調査研究及び情報収集の成果、並びに外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。

(東京国立博物館)

日本を中心に広くアジア諸地域等にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(京都国立博物館)

京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(奈良国立博物館)

仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(九州国立博物館)

日本とアジア諸地域等との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

2) 寄贈・寄託品の受入れ等

収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

③有形文化財の管理・保存・修理等

1)有形文化財の管理

国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えるため、収蔵品等の管理を徹底し、特に収蔵品等の増加に伴い収蔵に必要な施設設備の充実、改善を図る。また、収蔵品等の現状を確認の上、管理に必要なデータ（画像データ、テキストデータ等）を整備して、展示・調査研究等の業務に活かし、博物館活動を充実させる。なお、収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

2)有形文化財の保存

適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度、生物生息、空気汚染及び地震等への対策、並びに保存等に関する調査研究とそのデータの解析・蓄積を引き続き実施する。

3)有形文化財の修理

修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術担当者の連携のもと、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。また、修理に必要な調査研究のための基本設備の充実を図る。

4)文化財修理施設等の運営

文化財保存修理所等については、文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図る。

実績

① 博物館の施設設備の整備

4館とも、メンテナンスサイクルの構築に伴う現状の把握や個々の施設の現況調査、それらに基づく優先度設定等の具体的な作業を進捗させ、メンテナンスサイクルの構築へ向けた取り組みを着実に実施した。

② 有形文化財の収集等

4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。

【収蔵品件数推移】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	117,190	117,460	119,064	119,871	
京都国立博物館	7,794	7,977	8,075	8,130	
奈良国立博物館	1,886	1,893	1,908	1,911	
九州国立博物館	583	878	1,164	1,279	
合計	127,453	128,208	130,211	131,191	

【文化財購入費推移】（百万円）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	662	253	147	279	
京都国立博物館	130	292	106	384	
奈良国立博物館	5	550	102	100	
九州国立博物館	641	641	908	461	
合計	1,438	1,736	1,263	1,224	

【寄託品件数推移】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	3,075	3,109	3,130	2,591	
京都国立博物館	6,189	6,235	6,434	6,520	
奈良国立博物館	1,958	1,962	1,974	1,974	
九州国立博物館	905	934	931	1,300	
合計	12,127	12,240	12,469	12,385	

【寄贈件数推移】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	44	84	72	28	
京都国立博物館	251	172	86	31	
奈良国立博物館	1	1	9	0	
九州国立博物館	22	261	181	66	
合計	318	518	348	125	

③ 有形文化財の管理・保存・修理等

収蔵品等を常時、適切な保存及び管理環境下に置くため、以下の取組みを行った。

- ・収蔵等に必要な施設設備の充実、改善に向けた検討を継続して行った。（4館）
- ・定期的に寄託品の所在確認作業を行った。（4館）
- ・収蔵品の作品情報を作成し、文化財情報システムに随時登録し、データ整備を推進した。（4館）
- ・元年度から3か年計画にて収蔵品の棚卸しを開始した（九博）（元年度）
- ・適切な展示・保存環境の保持のため、収蔵・展示施設の温湿度に関してデータを収集し、適切な温度・湿度管理に努めた。（4館）
- ・緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理した。（4館）
- ・27年度より実施している国宝「医心方」の修理に継続して取り組んだ。（東博）（28～元年度）
- ・元年度は、4か年事業の重要文化財「大手鑑（八十葉）」の修理について最終年度として完了した。（京博）（元年度）

- ・修理前あるいは修理中に、文化財の物性に応じた各種科学分析調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てた。(4館)
- ・国宝「埴輪 挂甲の武人」などの蛍光X線分析による材質の調査を行い、材質調査や修理方針の決定などに寄与した。また、特別展「運慶」では瀧山寺所蔵「聖観音立像」などのX線撮影を行い調査、展示活動に寄与した。(東博)(28年度)
- ・継続して、文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行った。文化財保存修理所等を計画的に運用し、文化財の積極的な保存修理を図った。(京博・奈良博・九博)(28～元年度)

【各年度における収蔵施設の収容率】(%)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	180	180	133.8	133.8	
京都国立博物館	100	100	100	100	
奈良国立博物館	99	99	99	99	
九州国立博物館	80	85	80	80	

【資料等のデジタル化件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	25,334	26,972	25,575	26,475	
京都国立博物館	5,820	4,444	3,380	5,333	
奈良国立博物館	3,081	3,017	3,047	3,001	
合計	34,235	34,433	32,002	34,809	

【修理件数(本格修理)】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	68	69	26	24	
京都国立博物館	14	11	17	12	
奈良国立博物館	7	6	6	8	
九州国立博物館	18	19	40	31	
合計	107	105	89	75	

【修理のデータベース化件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	61	48	42	19	
京都国立博物館	151	180	149	171	
奈良国立博物館	62	69	63	74	
九州国立博物館	—	—	—	—	
合計	274	297	254	264	

(2) 展覧事業

中期目標

① 平常展

収蔵品等の状態に留意しつつ、できるだけ多くそれらを平常展で展示し、日本の歴史や日本美術の流れを概観できるよう努めること。

② 特別展等

調査研究の成果を基にした特定のテーマの特別展や、国際文化交流の進展を目的とする特別展等(外国に

おける展覧事業も含む)を、計画的に開催することとし、その質の向上に努めること。

③ 観覧環境の向上等

外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう、来館者の満足度を満たす多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等を推進するとともに開館時間の延長等、混雑時の対応やミュージアムショップやレストラン等のサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行うものとする。

中期計画

① 平常展

平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。

② 特別展等

1) 特別展

特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。

特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。

(東京国立博物館) 年3～4回程度

(京都国立博物館) 年1～2回程度

(奈良国立博物館) 年2～3回程度

(九州国立博物館) 年2～3回程度

なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。

2) 海外展等

海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

③ 観覧環境の向上等

1) 快適な観覧環境の提供

博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等

来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。

実績

展覧事業については、各年度ともに年度計画に従い展覧事業を計画的に実施した。

① 平常展

4館ともに、各館の特色を活かした展示を実施した。定期的な展示替の実施や、テーマ性を持った特集展示等を随時開催し平常展の充実に努めた。平常展来館者数については、元年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から年度末の約一か月の間、臨時休館としたが、初期の目標値を達成した。今中期目標期間を通して、一部の館で目標値に達しない年度もあったが、全体としては着実に達成している。

②特別展

4館ともに、基礎的な調査研究や、特別展に係る事前調査等の成果を踏まえて、展覧会を実施しており、我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行っている。特別展開催回数は、常に目標値を上回る実績を残した。特別展来館者数は、多くの展覧会において各年度計画で設定した数値目標を上回っており、全体として順調である。

③観覧環境の向上等

4館ともに、外国人を含めた来訪者の増加にも資するよう、来館者の満足度を満たす多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化等を推進した。平常展及び特別展における題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図り、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行った。

【博物館の年間総来館者数】(人)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	1,907,647	2,569,585	2,142,960	2,588,632	
京都国立博物館	384,340	941,931	477,884	376,061	
奈良国立博物館	449,322	549,211	527,786	612,755	
九州国立博物館	922,468	668,269	700,391	674,277	
合計	3,663,777	4,728,996	3,849,021	4,251,725	

【平常展来館者数】(人)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	計画値	512,186	512,186	512,186	512,186	
	実績値	761,709	1,030,180	989,508	1,030,652	
	達成度	148.7%	201.1%	193.2%	201.2%	
京都国立博物館	計画値	166,600	136,309	141,041	130,629	
	実績値	197,579	152,538	157,482	158,664	
	達成度	111.7%	100.4%	103.7%	121.5%	
奈良国立博物館	計画値	118,173	118,173	118,173	118,173	
	実績値	145,676	135,776	140,829	160,869	
	達成度	123.3%	114.9%	119.2%	136.1%	
九州国立博物館	計画値	387,744	387,744	387,774	387,744	
	実績値	393,590	350,848	349,114	348,563	
	達成度	101.5%	90.5%	90.0%	89.9%	
合計	実績値	1,498,554	1,669,342	1,636,966	1,712,656	

【平常展展示替件数】(件)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	計画値	6,009	6,009	6,009	6,009	
	実績値	8,538	6,616	5,981	5,813	
	達成度	142.1%	110.1%	99.5%	96.7%	
京都国立博物館	計画値	919	919	919	919	
	実績値	943	973	1,021	1,140	
	達成度	102.6%	105.9%	111.1%	124.0%	
奈良国立博物館	計画値	314	314	314	314	
	実績値	427	210	232	239	
	達成度	136.0%	66.9%	73.9%	76.1%	

九州国立 博物館	計画値	1,253	1,253	1,253	1,253	
	実績値	1,654	1,594	1,779	1,641	
	達成度	132.0%	127.2%	142.0%	131.0%	

【平常展展示総件数】(件)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立 博物館	計画値	-	-	-	-	
	実績値	10,918	10,223	9,253	9,267	
	達成度	-	-	-	-	
京都国立 博物館	計画値	-	-	-	-	
	実績値	1,068	978	1,038	1,147	
	達成度	-	-	-	-	
奈良国立 博物館	計画値	-	-	-	-	
	実績値	664	548	462	461	
	達成度	-	-	-	-	
九州国立 博物館	計画値	-	-	-	-	
	実績値	2,208	1,894	1,995	1,894	
	達成度	-	-	-	-	

【平常展来館者アンケート満足度】(%)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立 博物館	計画値	74	74	74	74	
	実績値	71	87.3	89.2	90.2	
	達成度	96.0	118.0	120.5	121.9	
京都国立 博物館	計画値	79	79	79	79	
	実績値	75	84.4	89.7	79.1	
	達成度	95.0	106.8	113.5	100.1	
奈良国立 博物館	計画値	79	79	79	79	
	実績値	88.9	90.1	92.5	93.2	
	達成度	112.5	114.1	117.1	118.0	
九州国立 博物館	計画値	67	67	67	67	
	実績値	73.8	77.8	73.6	77.1	
	達成度	110.1	116.1	109.9	115.1	

②特別展

【特別展来館者数】(人)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館		1,145,938	1,539,405	1,153,452	1,557,980	
京都国立博物館		186,761	789,393	320,402	203,489	
奈良国立博物館		303,646	413,435	386,957	451,886	
九州国立博物館		528,878	317,421	351,277	325,714	
合計		2,165,223	3,059,654	2,212,088	2,539,069	

【特別展開催回数】(回) (※海外展を含む)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立	計画値	3~4	3~4	3~4	3~4	

博物館	実績値	13	7	9	8	
	達成度	300	175	225	200	
京都国立博物館	計画値	1～2	1～2	1～2	1～2	
	実績値	2	2	2	2	
	達成度	100	100	100	100	
奈良国立博物館	計画値	2～3	2～3	2～3	2～3	
	実績値	3	3	3	3	
	達成度	100	100	100	100	
九州国立博物館	計画値	2～3	2～3	2～3	2～3	
	実績値	5	4	4	4	
	達成度	166.7	133.4	133.4	133.4	
合計	実績値	23	16	18	17	

【特別展来館者アンケート満足度】 (%)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	計画値	71	71	71	71	
	実績値	87.9	86.4	84.2	86.6	
	達成度	123.8	121.7	118.6	122.0	
京都国立博物館	計画値	89	89	89	89	
	実績値	78.1	81.9	94.6	71.6	
	達成度	114	92	106.3	80.4	
奈良国立博物館	計画値	80	80	80	80	
	実績値	86.4	88.1	89.8	91.4	
	達成度	108	110.1	112.3	114.3	
九州国立博物館	計画値	86	86	86	86	
	実績値	85.9	87.2	86.7	84	
	達成度	100	101.4	100.8	97.7	

【海外展回数】 (回)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館		5	2	2	0	
京都国立博物館		0	0	0	0	
奈良国立博物館		0	0	0	0	
九州国立博物館		1	1	0	0	
合計		5	2	2	0	

【特別展等開催実績】

年度	博物館	名称	来館者数 (人)	目標来館者 数 (人)
28	東京国立博物館	特別展「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠」	182,353	100,000
		特別展「黄金のアフガニスタン —守りぬかれたシルクロードの秘宝—」	154,875	70,000
		日韓国交正常化50周年記念 特別展「ほほえみの御仏—二つの半跏思惟像—」	78,562	—
		特別展「古代ギリシャ展—時空を超えた旅—」	199,567	200,000

		特別展「平安の秘仏—滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち」	212,144	80,000
		臨濟禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱記念 特別展「禅—心をかたちに」	133,629	90,000
		特別展「春日大社展—千年の至宝」	209,572	120,000
	京都国立博物館	特別展覧会「禅—心をかたちに—」	88,228	70,000
		特別展覧会「没後 150 年 坂本龍馬」	98,533	60,000
	奈良国立博物館	特別展「国宝 信貴山縁起絵巻—朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」	55,198	50,000
		生誕 800 年記念特別展「忍性 —救済に捧げた生涯—」	39,834	30,000
		第 68 回 正倉院展	208,614	180,000
	九州国立博物館	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	191,222	110,000
		特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」	133,002	70,000
		特別展「京都 高山寺と明恵上人—特別公開 鳥獣戯画—」	161,172	120,000
		特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	75,966	40,000
29	東京国立博物館	特別展「茶の湯」	245,795	150,000
		日タイ修好 130 周年記念特別展「タイ ～仏の国の輝き～」	116,100	70,000
		フランス人間国宝展	70,192	40,000
		興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」	600,439	250,000
		特別展「仁和寺と御室派のみほとけ — 天平と真言密教の名宝 —」	324,042	150,000
	京都国立博物館	開館 120 周年記念 特別展覧会「海北友松」	164,900	80,000
		開館 120 周年記念 特別展覧会「国宝」	624,493	200,000
	奈良国立博物館	快慶 日本人を魅了した仏のかたち	123,842	70,000
		1000 年忌特別展「源信 地獄・極楽への扉」	72,540	40,000
		第 69 回 正倉院展	217,053	180,000
	九州国立博物館	特別展「タイ展～仏の国の輝き～」	56,314	60,000
		世界遺産 ラスコ—展 クロマニヨン人が見た世界	118,555	60,000
		「新・桃山展—大航海時代の日本美術」	87,413	90,000
30	東京国立博物館	「アラビアの道—サウジアラビア王国の至宝」	250,100	100,000
		創刊記念『國華』130 周年・朝日新聞 140 周年 特別展「名作誕生—つながる日本美術」	173,955	120,000
		特別展「縄文—1 万年の美の鼓動」	354,259	100,000
		特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」	197,004	120,000
		東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画	80,191	50,000
		特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」	62,405	25,000
		特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」	198,920	60,000
	京都国立博物館	特別展「池大雅 天衣無縫の旅の画家」	67,399	70,000
		特別展「京のかたな 匠のわざと雅のこころ」	253,003	80,000
	奈良国立博物館	創建 1250 年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」	95,950	50,000
		修理完成記念特別展「糸のみほとけ—国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏—」	45,175	50,000
		特別展「第 70 回 正倉院展」	245,832	180,000
	九州国立博物館	特別展「王羲之と日本の書」	70,110	40,000
		特別展「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」	198,489	120,000
		明治 150 年記念 特別展「オークラ コレクション」(古今の美を収集した、大倉父子の夢)	63,069	40,000

		特別展「京都・醍醐寺—真言密教の宇宙—」	74,748	70,000
元	東京国立博物館	特別展 御即位 30 年記念「両陛下と文化交流 日本美を伝える」	122,764	50,000
		特別展「東寺—空海と仏像曼荼羅」	463,991	200,000
		特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 雪舟、永徳から光琳、北斎まで」	106,593	50,000
		日中文化交流協定締結 40 周年特別展「三国志」	337,639	120,000
		特別展「人、神、自然—アール・サーニ コレクションの名品が語る古代の世界—」	139,737	60,000
		特別展「正倉院の世界—皇室が守り伝えた美—」	362,076	200,000
		日本書紀成立 1300 年記念特別展「出雲と大和」	136,054	150,000 (110,000)
	京都国立博物館	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の明宝」	66,678	70,000
		特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	136,811	80,000
	奈良国立博物館	国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき	158,078	50,000
		特別展「第 71 回 正倉院展」	277,133	180,000
		特別展「毘沙門天—北方鎮護のカミ」	16,675	50,000
	九州国立博物館	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」	53,524	70,000
		特別展「室町将軍—戦乱と美の足利十五代—」	86,399	40,000
日中文化交流協定締結 40 周年 特別展「三国志」		140,155	70,000	
特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」		45,636	60,000 (25,000)	
2	東京国立博物館	ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」		50,000
		法隆寺金堂壁画再現 70 年「法隆寺金堂壁画と百済観音」		100,000
		特別展 「きもの KIMONO」		100,000
		特別展 「聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」		150,000
		東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツ Nippon」		50,000
		日中韓国立博物館共同企画特別展「日本・中国・韓国の漆工」(仮称)		50,000
		特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」		200,000
		特別展「桃山—天下人の 100 年」		120,000
		特別展「工藝 2020—日本の工藝と自然—」		50,000
		特別展「日本のたてももの—自然素材を伝統技術に活かす知恵」(仮称)		50,000
		特別展「ジパング 世界と出会った日本の美」		100,000
		日本美術の魅力(在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展)		50,000
		京都国立博物館	西国三十三所 草創 1300 年記念 特別展「聖地をたずねて—西国三十三所の信仰と至宝—」	
	御即位記念 特別展「皇室の名宝」			100,000
奈良国立博物館	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」		50,000	
	特別展「仏教美術名品展」(仮称)		50,000	
	特別展「第 7 2 回 正倉院展」(予定)		180,000	

		特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」		40,000
	九州国立博物館	特別展「ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展」		70,000
		開館15周年記念特別展「海幸山幸—祈りと恵みの風景」		50,000
		開館15周年記念特別展「加耶」(仮)		40,000
		特別展「中宮寺の国宝」(仮)		60,000

③海外展等

【海外展等開催実績】

年度	博物館	名称	来館者数 (人)
28	国立文化財機構	海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」会場：上海博物館	349,375
		海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」会場：陝西歴史博物館	400,800(推計)
	東京国立博物館 九州国立博物館	海外展「日本美術の粋 東京・九州国立博物館精品展」会場：国立故宮博物院南院	93,391
	東京国立博物館	海外展「15—19世紀日中韓絵画精品展」会場：中国国家博物院	42,153
		海外展「韓国国宝半跏思惟像の出会い」	46,801
29	東京国立博物館 九州国立博物館	日タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ—信仰とくらしの造形—」展	59,599
	東京国立博物館	国立博物館合同企画特別展「東アジアの虎美術—韓国・日本・中国—」	34,050
30	東京国立博物館	江戸絵画名品展	126,948
		縄文—日本における美の誕生	14,806

③観覧環境の向上等

【来館者アンケート満足度】(%)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	70.4	68.1	71.3	71.7	
京都国立博物館	40.2	63.4	73.1	67.4	
奈良国立博物館	68.0	70.5	75.8	81.9	
九州国立博物館	77.2	63.7	61.6	70.2	

【外国人アンケートの満足度】(%)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	69.7	74.8	72.7	76.9	
京都国立博物館	69.3	73.5	82.9	67.3	
奈良国立博物館	67.7	69.7	79.8	79.1	
九州国立博物館	78.8	84.6	78.1	80.8	

(3) 教育普及活動等

中期目標

- ① 教育普及活動の充実
 - ・講演会、ギャラリートーク等（以下「講演会等」という。）を開催し、来館者等を対象とする教育・普及活動の充実と向上に努めること。
 - ・講演会等のほか、体験型プログラムや学校との連携事業等の実施により、幅広い層を対象とした多彩な学習機会を提供すること。
 - ・その他教育普及活動として、ボランティアの受入れや博物館支援者増加への取組に努めること。
- ② 有形文化財（美術工芸品）に関する情報の発信と広報の充実
 - ・展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報に努めるとともに、ウェブサイトにおいて収蔵等する有形文化財（美術工芸品）に関する情報を公開し、その質的向上と量的拡充に努め、アクセスの増加を図ること。

中期計画

- ①教育活動の充実等
 - 日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。なお、講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
 - 1)学習機会の提供
 - 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。
 - 2)ボランティア活動の支援
 - 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。
 - 3) 大学との連携事業等の実施
 - インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。
 - 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与
 - 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。
 - 5)博物館支援者増加への取組
 - 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。
- ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実
 - 文化財に関する情報の発信に努めるとともに、展覧事業及び各種事業に関し、積極的な広報を行う。
 - 1)有形文化財に関する情報の発信
 - ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
 - 2)資料の収集と公開
 - 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。
 - 3)広報活動の充実
 - 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
 - ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつ

つ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

実績

①教育活動の充実等

1) 学習機会の提供

4館ともに特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなどの多様なプログラムを各館で提供し、幅広い層に楽しむ機会を提供した。また、文化財活用センターが中心となり、企業等との連携を図りつつ、先端技術を駆使し、文化財に親しむためのレプリカやVR等映像コンテンツの開発・提供を実施した。

2) ボランティア活動の支援

4館ともに各館でボランティアの対象の研修を実施するなどボランティアによる解説の質的向上に努めた。九州国立博物館においては、来館者サービスの充実を図るとともに、「地域・市民とともに歩む博物館」の象徴的な存在である“九博ボランティア”の活動を、より多くの施設や団体に認知いただけるよう今後も広報していく予定である。

3) 大学との連携事業等の実施

4館ともにキャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施し、概ね順調にキャンパスメンバーズ加入大学数を増やしている。また、インターンシップ事業を継続することを通じて、人材育成に寄与することができている。

4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

4館ともに保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催し、文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与した。

5) 博物館支援者増加への取組

4館ともに企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図るべく、会員制度によるリピーターの拡大に努めた。また、会員制度利用者を対象とした事業を実施や、企業等と連携した広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努めた。

【講演会回数】(回)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	計画値	128	128	128	128	
	実績値	160	199	93	97	
	達成度	125	155.5	72.7	75.8	
京都国立博物館	計画値	26	26	26	26	
	実績値	45	32	37	28	
	達成度	173	123.1	142.3	107.7	
奈良国立博物館	計画値	28	28	28	28	
	実績値	26	26	27	25	
	達成度	92.9	92.9	96.4	89.3	
九州国立博物館	計画値	90	90	90	90	
	実績値	77	84	80	69	
	達成度	85.6	93.3	88.9	76.7	
合計	実績値	308	341	302	219	

【講演会等参加人数】(人)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	21,453	29,393	12,206	11,691	
京都国立博物館	5,132	4,014	4,357	3,285	

奈良国立博物館	3,518	3,437	3,569	3,261	
九州国立博物館	5,369	6,299	4,491	4,862	
合計	35,472	43,143	24,623	23,099	

【キャンパスメンバーズ加入校数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	52	53	56	60	
京都国立博物館	27	29	32	32	
奈良国立博物館	25	27	28	27	
九州国立博物館	25	25	23	23	
合計	129	134	139	142	

【ボランティア数】(人)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	169	151	149	159	
京都国立博物館	215	270	264	255	
奈良国立博物館	150	143	159	150	
九州国立博物館	307	313	295	274	
合計	841	877	867	838	

【賛助会等加入件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	455	559	621	686	
京都国立博物館	362	452	485	521	
奈良国立博物館	73	76	93	102	
九州国立博物館	—	2団体	45	47	
合計	890	1,089	1,244	1,356	

【友の会メンバーズパス加入者数】(件)

		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	友の会	2,337	2,967	2,939	3,145	
	パスポート	23,778	—	—	—	
	ペーシック	2,369	—	—	—	
	プレミアムパス	—	21,718	18,354	19,853	
	小計	28,484	24,685	21,293	22,998	
京都国立博物館	パスポート	5,493	—	—	—	
	メンバーズパス	—	1,814	1,112	1,073	
奈良国立博物館	パスポート	3,739	—	—	—	
	プレミアムカード	—	1,664	1,406	1,357	
九州国立博物館	友の会	268	83	73	91	
	パスポート	5,748	—	—	—	
	プレミアムパス	—	5,108	5,214	4,415	
	小計	6,016	5,191	5,287	4,506	
合計	43,732	33,354	29,098	29,934		

【体験型プログラム等実施回数】(回)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	827	703	702	671	
京都国立博物館	553	467	482	429	
奈良国立博物館	21	26	28	33	
九州国立博物館	2,143	2,041	1,873	1,993	
合計	3,544	3,237	3,085	3,126	

【体験型プログラム等参加者数】(人)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	199,167	272,867	309,901	360,572	
京都国立博物館	21,333	282,014	47,198	94,743	
奈良国立博物館	384	399	436	363	
九州国立博物館	7,796	8,651	4,914	4,047	
合計	228,680	563,931	362,449	459,725	

②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1)有形文化財に関する情報の発信

文化財活用センター・東京国立博物館における「有形文化財に関する情報の発信」では、4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」について、掲載画像を増やし、その充実を図るべく、元年度はColBaseの改修を実施した。対象に奈良文化財研究所を加えたほか、各館の公開データベースのデータをColBaseに定期的に自動で取り込む機能を追加して、作業の効率化を図り、最新のデータを迅速に反映させるようにした。

2)資料の収集と公開

4館ともに「資料の収集と公開」では、国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努めている。奈良国立博物館においては、図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図るため、仏教美術に関連する図書資料の収集を積極的に行い、仏教美術資料研究センターでの資料公開を継続した。

3)広報活動の充実

4館ともに広報については、各館とも多様なメディアを通して積極的に行っている。ウェブサイトへのアクセス件数は総じて順調に増加しており、目標値以上の成果を達成した。東京国立博物館においては、元年度は、メールマガジンを読みやすい構成に変更し、その結果、SNSのフォロワー数を十分に確保することができた。今後はツイッター、インスタグラムのフォロワー数をさらに増やすとともに、ツイッターのクイズ機能等の活用、若年層に訴求するような画像を発信し、新たなユーザー開拓を図る予定である。

【ウェブサイトアクセス件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810	
京都国立博物館	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829	
奈良国立博物館	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901	
九州国立博物館	2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955	
e 国宝	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236	

(4) 有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

中期目標

有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展示等に係る調査研究

収蔵予定又は収蔵している有形文化財（美術工芸品）若しくは特別展等で借用する有形文化財（美術工芸品）について、科学的手法を適切に用いて、学術的・芸術的な価値の究明とコンディションの分析等を行い、適切な保管・展示の環境維持や修理等の処置に資すること。また、将来にわたる収集活動、展覧事業の企画等に資するよう、有形文化財（美術工芸品）全般に及ぶ調査研究を行うこと。

定期刊行物、図版目録、特別展等図録、研究紀要及び調査報告書等（以下「刊行物等」という。）に関する刊行計画を策定し、これに従い刊行して、有形文化財（美術工芸品）に関する調査研究の成果等の発信に努めること。また、著作権処理の可能なものについては、学術情報リポジトリ等を参考にウェブサイトで公表するよう努めること。

中期計画

① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究

収蔵品・寄託品をはじめとする文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究、各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関する基礎的かつ総合的な調査研究、及び歴史・伝統文化の理解促進に資する展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究等を実施し、その成果を展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信する。

② その他 有形文化財に関連する調査研究

文化財の収集・保存・修理・管理ほか、文化財及び博物館の業務に関連する調査研究を実施する。また、将来的に展覧事業や教育活動等に結びつく基礎的な調査研究を実施する。

③ 国内外の博物館等との学術交流等

我が国における博物館活動の先導的役割を果たすとともに、文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招へいし、国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。さらに、2019年 ICOM 京都大会の開催にあたり、国内外の博物館・美術館や研究機関等とのネットワークを構築し、博物館活動全体の活性化に寄与する。

④ 調査研究成果の公表

文化財等に関する調査研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧事業に関わる刊行物などで発表するとともに、ウェブサイトでの公開等、調査研究成果の発信を更に拡充する。なお、定期刊行物等を前中期目標の期間の実績以上刊行する。

実績

① 有形文化財の展覧事業・教育普及活動等に関連する調査研究

② その他 有形文化財に関連する調査研究

4館ともに有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に必要な調査研究を計画的に実施し、その成果は、展覧事業・教育普及活動等に反映し、広く一般に発信することに結び付けた。

【調査研究テーマ一覧】

東京国立博物館	
28年度	特別調査「法隆寺献納宝物」（第38次）
	特別調査「書跡」第14回
	特別調査「工芸」第8回
	特別調査「彫刻」第6回
	特別調査（「絵画」第1回）
	油彩画の材料・技法に関する共同調査

東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査
館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
東洋民族資料に関する調査研究
特集「藤原行成の書 その流行と伝称」に関連する調査研究
特集「上海博物館との競演」に関連する調査研究
特集「親と子のギャラリー 美術のうら側探検隊」に関連する調査研究
特集「ドレスラーの贈り物—明治にやってきた欧米のやきものとガラス」に関連する調査研究
特集「歌仙絵」に関連する調査研究
特集「生誕百年記念 小林斗盦 篆刻の軌跡」に関連する調査研究
特集「掛袱紗—祝う心を模様にかくす」に関連する調査研究
特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究
中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究（科学研究費助成事業）
能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究（科学研究費助成事業）
日本染織コレクションの形成に関する研究（科学研究費助成事業）
絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）
古墳時代武装具に関する研究（科学研究費助成事業）
中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）
神像表現彫刻における物語性の研究（科学研究費助成事業）
法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）
清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究（科学研究費助成事業）
古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する研究（科学研究助成事業）
東アジアにおける繡仏の基礎的調査研究（科学研究費助成事業）
高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究（科学研究費助成事業）
大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合研究（科学研究費助成事業）
徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究（科学研究費助成事業）
ディルムン文明の起源—バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究—（科学研究費助成事業）
東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費助成事業）
「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）
在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究（科学研究費助成事業）
武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費助成事業）
極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較 —東アジア金属工芸史の再構築—（科学研究費助成事業）
工芸の展開—金属工芸鑄金における真土型鑄造法の研究—
対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—（科学研究費助成事業）
日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究（科学研究費助成事業）
住吉派の摸写から見る近世御用絵師の絵画制作研究（科学研究費助成事業）
19世紀日本の女性南画家の移動と交友圏（科学研究費助成事業）
「月次祭礼図摸本」総合復元研究（科学研究費助成事業）
曾我蕭白筆「郡仙図屏風」の図像およびその文化的背景に関する研究（出光文化福祉財団）
三条西公条をめぐる絵事—「詠歌之大概歌仙図」を中心に—（メトロポリタン東洋美術研究センター）
特別展「平安の秘仏—滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究
特別展「春日大社 千年の至宝」に関する調査研究
特別展「茶の湯」に関する調査研究
日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する調査研究
博物館環境デザインに関する調査研究
博物館教育に関する調査研究
凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究

	ICT を利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究
	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（科学研究費助成事業）
	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費助成事業）
	博物館の環境保存に関する調査研究
	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築（科学研究費助成事業）
	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獸鏡の総合的研究（科学研究費助成事業）
	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究（科学研究費助成事業）
	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究
	博物館における文化財の情報資源化に関する研究（科学研究費助成事業）
	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）
	東京国立博物館所蔵帝室本データベース（科学研究費助成事業）
	東京国立博物館国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費助成事業）
29 年度	特別調査（「法隆寺献納宝物」（第 39 次））
	特別調査（「書跡」第 15 回）
	特別調査（「工芸」第 9 回）
	特別調査（「彫刻」第 7 回）
	特別調査（「絵画」第 2 回）
	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究
	油彩画の材料・技法に関する共同調査
	仏教美術等の光学的手法による共同研究
	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
	東洋民族資料に関する調査研究
	特集「チベットの仏教と密教の世界」に関連する調査研究
	特集「新指定 重要文化財 野毛大塚古墳—世田谷の中期古墳—」に関連する調査研究
	特集 親と子のギャラリー「びょうぶとあそぶ」に関連する調査研究
	特集「唐三彩」に関連する調査研究
	特集「アジアの祈り」に関連する調査研究
	特集「室町時代のやまと絵—絵師と作品—」に関連する調査研究
	特集「刀剣鑑賞の歴史」に関連する調査研究
	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究
	特集「日本の仮面 能狂言面の神と鬼」に関連する調査研究
	特集「高野切—平安時代最盛期の仮名」に関連する調査研究
	日本染織コレクションの形成に関する研究（科学研究費助成事業）
	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）
	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容に関する研究（科学研究費助成事業）
	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究（科学研究費助成事業）
	大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）
	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究（科学研究費助成事業）
	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究（科学研究費助成事業）
	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究（科学研究費助成事業）
	ディルムン文明の起源—パハレーン島における古墳群の考古学的調査研究—（科学研究費助成事業）
	「地域考古学」と「聖書考古学」の協業による古代パレスチナ地域史の再構築（科学研究費助成事業）
	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費助成事業）

	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に— (科学研究費助成事業)
	「月次祭礼図摸本」の総合復元研究 (科学研究費助成事業)
	模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究 (科学研究費助成事業)
	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究 (科学研究費助成事業)
	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察 (科学研究費助成事業)
	フェニキア人の「出現」—考古資料から見た初期の交易活動と対外進出 (科学研究費助成事業)
	東アジア礼制に基づく物質文化研究 —日・中・韓・越・琉の宮廷工芸を対象として— (科学研究費助成事業)
	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究 (科学研究費助成事業)
	古代寺院荘厳具の復元的研究～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～ (科学研究費助成事業)
	撰閣家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究 (科学研究費助成事業)
	古代西アジアにおける宗教と福祉の相互関係をめぐる総合的実証研究 (科学研究費助成事業)
	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究 (科学研究費助成事業)
	真言密教寺院の資料調査に基づく分野横断的総合研究—新たな仏教思想史の枠組みを求めて (科学研究費助成事業)
	中国典籍日本古写本の研究 (科学研究費助成事業)
	日本陶磁における銀彩の美術史的意義について (鹿島美術財団)
	上杉家の伝来能楽面の学際的調査研究 (野上記念法政大学能楽研究所)
	特別展「運慶」に関する調査研究
	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ—天平と真言密教の名宝—」に関する調査研究
	「アラビアの道—サウジアラビア王国の至宝」に関する調査研究
	創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年 特別展「名作誕生—つながる日本美術」に関する調査研究
	特別展「縄文 —1万年の美の鼓動—」に関する調査研究
	博物館環境デザインに関する調査研究
	博物館教育に関する調査研究
	凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究
	I C Tを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究
	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析 (科学研究費助成事業)
	博物館の環境保存に関する調査研究
	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築 (科学研究費助成事業)
	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究 (科学研究費助成事業)
	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
	博物館における文化財の情報資源化に関する研究 (科学研究費助成事業)
	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究 (科学研究費助成事業)
	東京国立博物館所蔵写真資料データベース (科学研究費助成事業)
30年度	特別調査 (「法隆寺献納宝物」(第40次))
	特別調査 (「書跡」第16回)
	特別調査 (「工芸」第10回)
	特別調査 (「彫刻」第8回)
	特別調査 (「絵画」第3回)
	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究
	油彩画の材料・技法に関する共同調査
	仏教美術等の光学的手法による共同研究
	東洋民族資料に関する調査研究
	「上杉家伝来の能面・能装束」ほか特集に関連する調査研究

	科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金等外部資金を活用した調査研究
	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究
	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究
	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究
	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究
	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察に関する研究
	大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究
	「明治 150 年記念 書と絵が語る明治」に関連する調査研究
	特集「岡野繁蔵コレクション—インドネシア由来の染織と陶磁器」に関連する調査研究
	特集「ワヤン—インドネシアの人形芝居—」に関連する調査研究
	特集「京都御所 飛香舎（藤壺）の調度」に関連する調査研究
	特集「白磁の誕生と展開」に関連する調査研究
	特集「ラファエル・コランと黒田清輝」に関連する調査研究
	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究
	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」に関する調査研究
	特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」に関連する調査研究
	特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」に関連する調査研究
	特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」に関連する調査研究
	特別展「国宝 東寺-空海と仏像曼荼羅」に関連する調査研究
	特別展「三国志」に関連する調査研究
	博物館環境デザインに関する調査研究
	博物館教育に関する調査研究
	凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究
	I C T を利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究
	博物館の環境保存に関する調査研究
	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築
	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
元年度	特別調査（「法隆寺献納宝物」（第 41 次））
	特別調査（「書跡」第 17 回）
	特別調査（「工芸」第 11 回）
	特別調査（「彫刻」第 9 回）
	特別調査（「絵画」第 4 回）
	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究
	油彩画の材料・技法に関する共同調査
	仏教美術等の光学的手法による共同研究
	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究
	東洋民族資料に関する調査研究
	特集「天皇と宮中儀礼」に関する調査研究
	特集「やちむん—沖縄のやきもの」に関する調査研究
	特集「伝説の面打ちたち」に関する調査研究
	特集「法隆寺と聖徳太子—法隆寺研究の近代」に関する調査研究
	特集「平家納経模本の世界—益田本と大倉本—」に関する調査研究
	特集「近世日本と外国文化」に関する調査研究
	特集「朝鮮王朝の宮廷文化」に関する調査研究
	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究
	特別展「出雲と大和」に関する調査研究

	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究
	住友財団修復助成 39 年記念 特別企画「文化財よ、永遠に」に関する調査研究
	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室が守り伝えた美—」に関する調査研究
	特別展「人、神、自然—ザ・アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界」に関する調査研究
	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究
	特別展「きもの KIMONO」に関する調査研究
	「スポーツ・武道の世界と文化展」に関する調査研究
	特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」に関する調査研究
	特別展「桃山 天下人の 100 年」に関する調査研究
	博物館環境デザインに関する調査研究
	博物館教育に関する調査研究
	凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究
	ICT を利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究
	博物館の環境保存に関する調査研究
	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築
	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
京都国立博物館	
28 年度	訓点資料としての典籍に関する調査研究
	出土・伝世古陶磁に関する調査研究
	CT スキャナ等科学機器を用いた文化財の調査研究
	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究 河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）
	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査
	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究
	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究
	特集陳列「丹後の仏教美術」に関連する調査研究
	特集陳列「徳川将軍家と京都の寺社」に関連する調査研究
	特集陳列「与謝蕪村」に関連する調査研究
	特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」に関連する調査研究
	特集陳列「伊藤若冲」に関連する調査研究
	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究
	東アジアにおける繡仏の基礎的研究（科学研究費助成事業）
	特別展覧会「没後 150 年 坂本龍馬」に関する調査研究
	特別展覧会「海北友松」に関する調査研究
	ボランティアによる、ハンズオン教材等を活用した展示作品理解のための事業に関する調査研究
	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究
	3D プリンター等を用いた教育プログラムに関する調査研究
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の保存・修復に関する調査研究
	文化財情報に関する調査研究
	29 年度
訓点資料としての典籍に関する調査研究	
陶磁に関する調査研究	
近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究 河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	
幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査（科学研究費助成事業）	

	日本の宮廷装束・調度に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）
	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）
	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）
	特集展示「鳥羽伏見の戦い」に関連する調査研究
	特集展示「京博すいぞくかん—どんなおさかないのかな？」に関連する調査研究
	東アジアにおける繡仏の基礎的研究（科学研究費助成事業）
	思溪版大蔵経刊行実態の解明—目録と遺例による実証的研究（科学研究費助成事業）
	開館 120 周年記念特別展覧会「国宝」に関する調査研究
	特別展「池大雅 天衣無縫の旅の画家」に関する調査研究
	ボランティアによる、ハンズオン教材等を活用した展示作品理解のための事業に関する調査研究（科学研究費助成事業）
	博物館教育に関する調査研究
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の保存・修復に関する調査研究
	鉛釉陶器の鉛同位体比值と金属元素の価数から考察する生産地と焼成技術の特徴に関する調査研究（科学研究費助成事業）
	文化財情報に関する調査研究
30 年度	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究
	訓点資料としての典籍に関する調査研究
	陶磁に関する調査研究
	近畿地区社寺文化財の調査研究
	世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究
	代陶磁器の生産技術に関する自然科学的研究
	思溪版大蔵経刊行実態の解明—目録と遺例による実証的研究
	特集展示「美麗を極める中国陶磁」に関する調査研究
	特集展示「百萬遍知恩寺の名宝」に関する調査研究
	特別企画「日中平和友好条約締結 40 周年記念 中国近代絵画の巨匠 齊白石」に関する調査研究
	特集展示「初公開！天皇の即位図」に関する調査研究
	特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究
	特別展「京のかたな 匠のわざと雅のこころ」に関する調査研究文化財情報に関する調査研究
	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」に関する調査研究
	博物館教育及びボランティアに関する調査研究
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究
	非破壊分析手法とその分析精度に係る調査研究
	文化財情報に関する調査研究
元年度	近畿地区社寺文化財の調査研究
	訓点資料としての典籍に関する調査研究
	旧家伝来の工芸品に関する調査研究
	京都周辺の考古遺物に関する調査研究
	特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究
	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究
	特別展「西国三十三所草創 1300 年記念 聖地をたずねて—西国三十三所の信仰と至宝—」に関する調査研究
	博物館教育及びボランティアに関する調査研究
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究

	文化財情報に関する調査研究
奈良国立博物館	
28 年度	復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究
	平安時代の大般若経の総合的調査と、歴史資料としての情報資源化に関する研究
	仏教工芸・上代工芸の総合的調査
	墳墓出土品の調査と研究
	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
	綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
	特別陳列「お水取り」に関連する調査研究
	特別陳列「和紙－近代和紙の誕生－」に関連する調査研究
	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関連する調査研究
	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究（科学研究費助成事業）
	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（科学研究費助成事業）
	生誕800年記念特別展「忍性－救済に捧げた生涯－」に関する調査研究
	特別展「第68回正倉院展」に関する調査研究
	特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」に関する調査研究
	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究
	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究
	収蔵品・寄託品等に関する文化財修理の観点からの調査研究
収蔵品・寄託品等に関する保存科学の観点からの調査研究	
文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	
29 年度	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究
	古代の写経と聖教に関する基礎的研究
	仏教工芸・上代工芸の総合的調査
	墳墓出土品の調査と研究
	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術－特集 社家史料と若宮－」に関連する調査研究
	X線CTスキャナ等による彫刻・漆工・考古資料などの文化財に関する構造技法の調査研究
	染織技法による仏像の研究（科学研究費助成事業）
	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究（科学研究費助成事業）
	1000年忌特別展「源信 地獄・極楽への扉」に関する調査研究
	特別展「第69回 正倉院展」に関する調査研究
	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」に関する調査研究
	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究
	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究
	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	
30 年度	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究
	古代の写経と聖教に関する基礎的研究
	仏教工芸・上代工芸の総合的調査
	墳墓出土品の調査研究
	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術－特集 大宿所－」に関する調査研究

	特別陳列「覚盛上人 770 年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」に関する調査研究
	X線CTスキャナ等による彫刻・漆工・考古資料などの文化財に関する構造技法の調査研究
	修理完成記念特別展「糸のみほとけ—国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏—」に関する調査
	特別展「第70回 正倉院展」に関する調査研究
	特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」に関する調査研究
	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究
	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究
	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究
元年度	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究
	古代の写経と聖教に関する基礎的研究
	仏教工芸・上代工芸の総合的調査
	墳墓出土品の調査研究
	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に関する調査研究
	特別陳列「法徳寺の仏像—近代を旅した仏たち—」に関する調査研究
	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち」に関する調査研究
	特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—」に関する調査研究
	特別展「御即位記念 第71回正倉院展」に関する調査研究
	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」に関する調査研究
	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究
	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響等に関する調査研究
	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究
九州国立博物館	
28年度	X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究
	日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究
	近世キリスト教に関する研究
	高等学校が所蔵する考古資料に関する研究
	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
	タイの歴史・美術に関する研究
	トピック展示「火縄銃の世界」に関連する調査研究
	トピック展示「きらめきで飾る—螺鈿の美をみつめて—」に関連する調査研究
	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費助成事業)
	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究(科学研究費助成事業)
	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較 —東アジア金属工芸史の再構築—(科学研究費助成事業)
	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究(科学研究費助成事業)
	近世西南日本の地域産業と対外交流の研究(科学研究費助成事業)
	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」に関する調査研究
	特別展「タイ～仏の国の輝き～」に関する調査研究
	特別展「世界遺産ラスコー展」に関する調査研究
	特別展「新・桃山展—大航海時代の日本美術」に関する調査研究
	NHKと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究

	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
	学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発
	文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究
	潜在的利用者をつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究
	松菊里型竪穴住居をモデルとした「組み立て式竪穴住居」の調査研究
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究
	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費助成事業）
	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究
	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）
	X線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立（科学研究費助成事業）
	みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）
	熊本県被災文化財救援事業（公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成金 ／独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進事業）
29年度	X線CTスキャナ等による青銅器・彫刻・漆工などの文化財の構造技法解析に関する調査研究
	近世キリスト教に関する研究
	高校所蔵考古資料を利用した博学連携活動の実践的研究（科学研究費助成事業）
	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
	日タイ間の文化交流に関する資料集積と統合的研究（科学研究費助成事業）
	特別展示「神と仏と鬼の郷－国東宇佐六郷満山－」に関連する調査研究
	特別展示「白隠さんと仙厓さん」に関する調査研究
	特集展示「国宝 銅鐸絵画」に関する調査研究
	特集展示「全国高等学校考古名品展2018」に関する調査研究
	特集展示「坂本五郎コレクション受贈記念 北斎と鍋島、そして」に関する調査研究
	特集展示「平戸松浦家伝来の伊能図」に関する調査研究
	特集展示「玉 - 古代を彩る至宝 - 」に関する調査研究
	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究（科学研究費助成事業）
	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（科学研究費助成事業）
	極薄青銅器と響銅を対象とした製作技術の比較－東アジア金属工芸史の再構築－（科学研究費助成事業）
	インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究（科学研究費助成事業）
	特別展「王羲之と日本の書」に関する調査研究
	明治150年記念 特別展「オークラ コレクション」に関する調査研究
	特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」に関する調査研究
	特別展「室町将軍（仮称）」に関する調査研究
	特別展「三国志展（仮称）」に関する調査研究
	特別展「瀋陽故宮展（仮称）」に関する調査研究
	NHKと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究
	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究
	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）

	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討（科学研究費助成事業）
	文化財防災ネットワーク推進事業（平成 29 年度文化芸術振興費補助金）
	X線 CT を用いた文化財有機質材料の同定方法の確立（科学研究費助成事業）
30 年度	X線 CT スキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究
	近世キリスト教に関する研究
	高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究
	特集展示「国宝 銅鐸絵画」に関する調査研究
	特集展示「全国高等学校考古名品展 2018」に関する研究
	インドネシアの装飾古墳に関する調査研究
	水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業
	特別展「明治 150 年記念 オークラコレクション」に関する調査研究
	特別展「新安沈船展（仮）」に関連する調査研究
	NHK と共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究
	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究
	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討
	日タイにおける文化財調査と資料集成
元年度	X線 CT スキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究
	近世キリスト教に関する研究
	高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究
	「山梨・釈迦堂遺跡の縄文文化（仮）」に関する調査研究
	水中遺跡の保存活用に関する研究
	特集展示 館蔵名品展「更紗 生命の花咲く布」に関する調査研究
	特集展示 住友財団修復助成 30 年記念「文化財よ、永遠に」に関する調査研究
	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究
	特別展「室町将軍—戦乱と美の足利十五代—」に関する調査研究（(4) -①-2）
	日中文化交流協定締結 40 周年記念 特別展「三国志」に関する調査研究
	NHK と共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究
	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
	身体障がい者向けの展示解説プログラムに関する調査研究
	特集展示「刀剣ことはじめ—刀剣ワールド財団と九博の名刀—」における観覧車の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての持続的 IPM システムの研究
	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討
文化財活用センター	
30 年度	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究
元年度	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究

【テーマ別展示の開催件数】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	33	28	28	18	
京都国立博物館	9	8	9	6	
奈良国立博物館	4	4	4	5	
九州国立博物館	6	6	9	8	
合計	52	46	50	37	

【講演回等の開催回数】(回)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	160	199	159	97	
京都国立博物館	45	32	37	28	
奈良国立博物館	26	26	27	25	
九州国立博物館	77	84	80	69	
合計	308	341	303	219	

【学術雑誌等への論文掲載数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	97	135	126	108	
京都国立博物館	38	62	57	58	
奈良国立博物館	29	37	37	50	
九州国立博物館	40	35	39	40	
合計	204	269	259	256	

③国内外の博物館等との学術交流等

4館においては、海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし海外の研究者との交流を促進するとともに、海外の博物館・美術館等に研究者を派遣した。特に、京都国立博物館においては、元年度はICOM京都大会をきっかけとして、国際博物館の日・ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム「ICOM京都大会2019の開催に向けて」の開催及び運営への協力や、ICOM京都大会開催記念 日米文化教育交流会議(GULCON)美術対話委員会シンポジウム「日本美術における国際交流—課題と可能性」の実行委員会への参画などを通じ、多くの海外の博物館関係者と交流を行うことができた。

【海外研究者招へい数】(人)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	73	35	79	55	
京都国立博物館	2	2	14	3	
奈良国立博物館	9	17	12	12	
九州国立博物館	43	9	21	3	
合計	127	63	126	73	

【研究員派遣数】(人)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	60	67	52	78	
京都国立博物館	21	21	35	18	
奈良国立博物館	16	22	20	33	
九州国立博物館	67	47	45	31	
合計	164	157	152	160	

④調査研究成果の公表

調査研究成果を継続的に広く公開するため、研究紀要、展覧会図録、文化財修理報告書やその他のリーフレット等を多数刊行した。

【定期刊行物等の刊行数】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	16	16	16	15	
京都国立博物館	10	11	11	12	
奈良国立博物館	6	6	6	6	
九州国立博物館	5	5	5	6	
合計	37	38	38	39	

(5) 国内外の博物館活動への寄与

中期目標

- ① 国内外の博物館等への有形文化財（美術工芸品）の貸与
国内外からの博物館等からの有形文化財（美術工芸品）の貸与等の依頼に対し、国宝・重要文化財の場合は文化財保護法の規定にのっとり適切に対処するとともに、各文化財の保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案し、積極的に対応すること。
- ② 国内外の博物館等への援助・助言等
国内外からの博物館等からの専門的・技術的な協力等の依頼に対し、可能な限り積極的に対応すること。

中期計画

- ① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。
- ② 国内外の博物館等への援助・助言等
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

実績

- ① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与
有形文化財（美術工芸品）の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。なお、展示期間や会場の温湿度の設定、警備体制など貸与先の環境と作品の状態を確認した上で貸出を行っている。

【文化財の貸与件数】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京国立博物館	946	914	1,355	954	
京都国立博物館	367	349	289	348	
奈良国立博物館	165	210	134	136	
九州国立博物館	83	71	80	50	
合計	1,561	1,544	1,858	1,488	

② 国内外の博物館等への援助・助言等

国内外からの博物館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。

4館及び文化財活用センターでは、国内外の博物館等からの要請に応じて、例年多数の専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、継続して、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努めている。

【公私立博物館等に対する援助・助言件数】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
国立文化財機構	-	-	2	9	
文化財活用センター	-	-	20	68	
東京国立博物館	120	138	131	139	
京都国立博物館	112	168	140	152	
奈良国立博物館	62	72	71	66	
九州国立博物館	87	105	72	86	
合計	381	483	436	520	

2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

中期目標

- ① 有形文化財（美術工芸品、建造物）及び伝統的建造物群に関する調査研究
 - ・我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究
古代から近現代までの各時代において、絵画、彫刻等が造られた芸術的・社会的背景や、時代の推移による評価の変遷等について明らかにする。
 - ・建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究
現存する稀少な古代建築に関する調査研究等により、文献資料が少ない建築技法を明らかにするとともに、今後研究の進展が望まれる中近世・近代の建造物に関する基礎的調査等を行う。伝統的建造物群については、今後の重要伝統的建造物群保存地区の選定等に資する基礎的調査等を行う。
 - ・歴史資料・書跡資料に関する調査研究
近畿地方を中心とする古社寺の典籍・古文書等の調査を進め、歴史資料・書跡資料の解明を通じて、我が国の歴史、文化に関する研究の進展に資する。
- ② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究
 - ・重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究
重要無形文化財に指定されている伝統芸能・工芸技術を中心に、技法・技術の伝承に関する実地調査を行うとともに、関係資料の収集及び記録作成等を行う。
 - ・重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究
重要無形民俗文化財に指定されている民俗芸能・風俗慣習・民俗技術を中心に、伝承や保護に関する実地調査を行うとともに、関係資料の収集及び記録作成等を行う。
- ③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究
 - ・史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究
地域の資源であり、その振興にも寄与する史跡・名勝の保存・活用のためのマネジメントに関する研究を推進するとともに、今後研究の進展が望まれる近世・近代の庭園に関する基礎的調査研究を行う。
 - ・古代日本の都城遺跡に関する調査研究
東アジアの都城遺跡として、一層の研究の蓄積が期待される平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の発掘調査を計画的に進め、古代国家の形成等に関する研究を進展させる。
 - ・重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究
平成16年の文化財保護法改正で新たな文化財の区分と規定された文化的景観について、引き続き実地調査等に基づく情報の収集・公開を行うとともに、関連分野との学際的研究に取り組む。
 - ・全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究
全国の古代官衙・集落遺跡、瓦・土器・木簡等の遺物、水中文化遺産に関する調査研究を進める。

中期計画

- ① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究
有形文化財、伝統的建造物群に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等、並びに有形文化財の保存修復等に寄与する。
 - 1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究
 - 2) 建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究
 - 3) 歴史資料・書跡資料に関する調査研究
- ② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査研究
無形文化財、無形民俗文化財等に関する以下の課題に取り組み、その伝承・公開に係る基盤の形成に寄与す

る。

- 1) 重要無形文化財等の保存・活用に資する調査研究
- 2) 重要無形民俗文化財等の保存・活用に資する調査研究
- ③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究

記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する基礎的・体系的な調査研究として以下の課題に取り組み、記念物の保存・活用、古代国家の形成過程や社会生活等の解明、文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展、埋蔵文化財に関する学術研究の深化に寄与する。

- 1) 史跡・名勝の保存・活用に資する調査研究
- 2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究
- 3) 重要文化的景観等の保存・活用に資する調査研究
- 4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究
- 5) 水中文化遺産に関する調査研究

実績

東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組み、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与した。

調査研究の一例を挙げると、「藤原宮大極殿院地区の発掘調査」(奈文研)では、発掘調査による古代国家の形成過程の解明という中期計画の目標に基づき、藤原宮大極殿院地区の発掘調査と研究を進めた。28年度は、大極殿院東門と東面南回廊の調査(第190次)を実施し、それらの規模と構造を明らかにした。とりわけ梁行2間の複廊である回廊が、東門との取付部では棟通り柱1基のみとなり、柱間寸法が異なるなど特異な構造となることが判明した。29年度は、大極殿院回廊東北隅部の調査(第195次)を実施し、その規模と構造を明らかにした。また、回廊造営段階の排水溝や整地を確認するなど、藤原宮造営期の状況を明らかにした。30年度は、大極殿院北面回廊中央部分の調査(第198次)を実施し、北面回廊全体の柱配置と柱間寸法を明らかにした。また、北面回廊が複廊構造であることを確定し、その中央に北門が開くことを確認した。そのほか、大極殿院北部の造営過程において、運河を入念に埋め立て、排水溝を付け替え、二段階にわたって礫敷をほどこすなど、排水と地盤沈下への対応に苦慮していたことが新たに判明した。元年度は、大極殿院東面北回廊と内庭部の調査(第200次)を実施し、従来空地と考えられてきた大極殿院北半部が、東面北回廊から西へのびる大極殿後方東回廊によって南北に画されていたことを明らかにした。これは藤原宮の構造について再考を促すとともに、前期難波宮内裏地区との類似性から、古代宮殿の発展性をより明確にした成果といえる。また、建物造営に伴う造営溝の検討から、複雑な造営過程の様相も明らかになりつつある。今後も継続的に発掘調査を進め、藤原宮大極殿院の構造解明を目指す予定である。

【学術雑誌等への論文掲載数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
九州国立博物館	2	5	0	0	
東京文化財研究所	13	12	14	16	
奈良文化財研究所	37	61	56	81	
合計	52	73	70	97	

【報告書等の刊行数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
九州国立博物館	2	1	0	0	
東京文化財研究所	3	3	9	3	
奈良文化財研究所	16	17	13	11	
合計	21	21	22	14	

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
28 年度	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究
	日本東洋美術史の資料学的研究
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成
	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開
	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
29 年度	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究
	日本東洋美術史の資料学的研究
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成
	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開
	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
30 年度	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究
	日本東洋美術史の資料学的研究
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成
	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開
	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
元年度	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究
	日本東洋美術史の資料学的研究
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成
	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開
	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
奈良文化財研究所	
28 年度	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究
	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究
	我が国の記念物に関する調査・研究(遺跡等整備)
	我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)
	平城宮東院地区の発掘調査
	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路・一条南大路の発掘調査
	東大寺東塔院跡の発掘調査
	藤原宮跡の発掘調査(大極殿院)
	藤原宮跡の発掘調査(朝堂院)
	飛鳥地域発掘調査
	平城宮・京跡の出土遺物・遺構の調査研究等
	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等
	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究

	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究
	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究
	遺跡データベースの作成と公開
	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	水中文化遺産に関する調査研究（九博）
29年度	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究
	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究
	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）
	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）
	平城宮東院地区の発掘調査①
	平城宮東院地区の発掘調査②
	平城京跡右京一条二坊四坪・西一坊大路の発掘調査
	東大寺東塔院の発掘調査
	藤原宮大極殿院地区の発掘調査
	飛鳥地域等の発掘調査
	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等
	平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究
	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究
	中国との共同研究
	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究
	遺跡データベースの作成と公開
	古代官衙・集落遺跡研究、古代瓦研究
	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	水中文化遺産に関する調査研究（九博）
30年度	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究
	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究
	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）
	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）
	平城宮東院地区の発掘調査（平常第595次調査）
	平城宮東院朝堂院東門の発掘調査
	東大寺東塔院の発掘調査
	藤原宮大極殿院地区の発掘調査
	飛鳥地域等の発掘調査
	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等
	平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究
	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究
	中国との共同研究
	韓国との共同研究
	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究
	遺跡データベースの作成と公開
	古代官衙・集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	水中文化遺産に関する調査研究
元年度	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究
	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究
	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）

我が国の記念物に関する調査・研究(庭園)
平城宮東方官衙地区の調査
東大寺東塔院の発掘調査
平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査(611次)
藤原宮大極殿院地区の発掘調査
飛鳥地域等の発掘調査
飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等
平城宮・京出土遺物・遺構の調査・研究
3Dプロジェクト
東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究
中国との共同研究
韓国との共同研究
文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究
全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究
古代官衙・集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行
古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行
水中文化遺産に関する調査研究

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

中期目標

① 文化財の調査手法に関する研究開発

・ デジタル画像の形成方法等の研究開発

絵画等の文化財を、高精細、近赤外線等様々な技術を用いて撮影し、それらのデジタル画像情報をもとに科学分析を行う方法を研究開発する。

・ 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発

埋蔵文化財の探査、遺構・遺物の計測等について実験等を行い、新たな手法を研究開発する。

・ 年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発

年輪年代学を応用した建造物や木彫等の文化財の制作年代の調査方法について、非破壊検査等の新たな手法を研究開発する。

・ 動植物遺存体の分析方法の研究開発

生活・生業に関する重要な考古資料である動植物遺存体について、科学的分類に基づいた整理を行い、科学技術を応用した分析方法を研究開発する。

② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

・ 生物被害の予防と対策に関する調査研究

従来の大規模燻蒸に替わる屋内における虫菌害対策のシステム化の研究を行うとともに、環境制御が困難な屋外の生物被害の予防策等に関する調査研究を行う。

・ 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究

次世代の展示用照明としても期待されるLED、有機EL光源等が、文化財に与える影響等を研究し、基準となるデータを構築する。また、展示ケース内の空気汚染物質に関する調査研究を進める。

・ 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造及び保存状態に関する調査研究

文化財の現地調査等に用いる可搬型分析機器について、文化財の様々な状態や調査内容に対する用法を研究し、応用事例の充実と普及に努める。

・ 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究

屋外の石造物、木造建造物等を劣化させる様々な要因をできるだけ避けるため、物理学、化学、生物学等の多様な見地から対策を研究する。

・ 文化財の修復方法及び修復材料に関する調査研究

従来の伝統的な修復方法や材料に関する科学的調査と成果の普及に努めるとともに、これを補う必要のある事例等に即し、新たな修復材料や工法等の開発に資する研究を進める。

・ 埋蔵文化財の保存に関する調査研究

発掘調査で判明した遺構の環境等を踏まえた保存対策や、金属製・木製等の出土遺物の分析及び保存処理法等に関し、より精密化し安定化する方法等を研究する。

・ 建造物の彩色に関する調査研究

古社寺等の建造物の修理に資するため、塗装に関する技法や材料の科学的調査を進めるとともに、塗装彩色の経年変化に関する調査研究を行う。

・ 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究

コンクリート、レンガ等の建材や合成樹脂等の材料を用いた近代文化遺産の保存と修復に資するため、保存措置の手法やこれに必要な修理等に関する研究を推進する。

・ 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究

発掘調査、石室解体等により現状変更が行われている高松塚古墳及びキトラ古墳の恒久的保存の在り方及び方法等の研究を文化庁の要請に応じて進める。

中期計画

①文化財の調査手法に関する研究開発

文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与する。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

- 1) デジタル画像の形成方法等の研究開発
- 2) 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発
- 3) 年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発
- 4) 動植物遺存体の分析方法の研究開発

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進する。

以下の調査研究に取り組むとともに、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

- 1) 生物被害の予防と対策に関する調査研究
- 2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究
- 3) 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究
- 4) 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究
- 5) 文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究
- 6) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究
- 7) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究
- 8) 建造物の彩色に関する調査研究
- 9) 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究
- 10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究

実績

東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究を実施した。文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与することができた。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与した。文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進めた。国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進し、その成果を広く公開することにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与することができた。

調査研究の一例を挙げると、「文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究」（東文研）では、歴史的建造物、古墳環境など生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、簡易・迅速な生物モニタリング手法に関する基礎研究を行う。28年度は、環境低負荷型の殺虫処置方法である湿度制御温風殺虫処置の歴史的建造物への適用に向けた研究に着手した。処理効果判定のための害虫生息調査において、飛翔性昆虫を衝突させて捕獲するフライト・インターセプション・トラップを新たに適用して成果を得た。29年度は、国内で初めてとなる現地処理を日光山内の社寺において実施し、現地での応用まで展開させた。その際、処理対象となる木材害虫について殺虫効果の評価試験を実施することができた。引き続き30年度には、日光山中禅寺鐘楼で国内2例目となる現地処理を実施し、東京文化財研究所が開発した殺虫処理効果判定システムを導入した。元年度は、環境低負荷型の殺虫処置方法である湿度制御温風殺虫処理について、殺虫処理効果判定法の検討を行うとともに、殺虫方法の普及に向けて成果発信を行うなど、順調に研究業務が遂行された。

①文化財の調査手法に関する研究開発

【学術雑誌等への論文掲載数】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	0	0	4	5	
奈良文化財研究所	30	36	22	19	
合計	30	36	26	24	

【報告書等の刊行数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	1	1	1	1	
奈良文化財研究所	0	1	0	0	
合計	1	2	1	1	

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
28年度	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究
29年度	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究
30年度	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究
元年度	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究
奈良文化財研究所	
28年度	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発
	年輪年代学研究
	動植物遺存体の分析方法の研究開発
29年度	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発
	年輪年代学研究
	動植物遺体の調査研究
30年度	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発
	年輪年代学研究
	動植物遺体の調査研究
元年度	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発
	年輪年代学研究
	動植物遺体の調査研究

②文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

【学術雑誌等への論文掲載数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	18	17	12	12	
奈良文化財研究所	4	15	16	19	
合計	22	32	28	31	

【報告書等の刊行数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	4	4	4	5	
奈良文化財研究所	1	2	1	0	
合計	5	6	5	5	

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
28年度	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究

	保存と活用のための展示環境の研究
	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究
	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
29年度	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究
	保存と活用のための展示環境の研究
	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究
	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
30年度	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究
	保存と活用のための展示環境の研究
	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究
	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
元年度	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究
	保存と活用のための展示環境の研究
	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究
	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
奈良文化財研究所	
28年度	考古遺物の保存処理法に関する調査研究
	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究
	建造物彩色に関する研究
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
29年度	考古遺物の保存処理法に関する調査研究
	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究
	建造物の彩色に関する調査研究
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究
30年度	考古遺物の保存処理法に関する調査研究
	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究
	建造物の彩色に関する調査研究
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究
元年度	考古遺物の保存処理法に関する調査研究
	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究
	建造物の彩色に関する調査研究
	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究
	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

中期目標

- ① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進
 - ・基本方針第1の4(2)教育研究機関等の役割の③に掲げる文化財機構の役割を踏まえつつ、文化遺産国際協力を推進するとともに、国際協力推進体制について中核的な役割を担うこと。
- ② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
 - ・基本方針第1の4(2)教育研究機関等の役割の④に掲げる文化財機構の役割に従い、文化遺産国際協力を推進する。

中期計画

- ① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、下記のような事業を有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献する。

 - 1)文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
 - 2)文化遺産保護協力事業の推進
 - 3)文化遺産の保存・修復に関する人材育成等
- ② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

アジア太平洋地域において活動する研究者・研究機関と連携のもと、無形文化遺産保護の実践及び方法論についての国際会議やシンポジウム及び専門家会合並びに出版等の事業を通じた研究の活性化、研究情報の収集及びその活用戦略の検討と開発を通じて、当該地域における無形文化遺産保護のための研究を促進する。特に、自然災害等によって危機に瀕した無形文化遺産に注意を払い、その実態や保護事例についての調査研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

実績

東京文化財研究所、奈良文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいて、文化遺産の保護に関する国際的な協力を行うことを目的として、我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、有機的連携のもと総合的に展開することを通じて、人類共通の財産である海外の文化遺産保護に協力することにより、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に大きく貢献した。

アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）では、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のため、事業を計画に従い実施し、中期目標の達成に向け大きな進展を得ている。「アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究」においては、以下の事業を継続的に実施した。

- ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実
- ・無形文化遺産保護に関する研究の活性化に資する国際会議・研究者フォーラムの開催
- ・同地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究の実施
- ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集

【国際情報の収集等事業の実施件数】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	3	2	3	3	
奈良文化財研究所	3	3	3	3	
合計	6	5	6	6	

【研修・ワークショップ等の参加者の満足度】（％）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
--	------	------	------	-----	-----

東京文化財研究所	100	100	100	100	
奈良文化財研究所	—	—	—	—	

【共同研究等の実施件数】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	1	1	0	0	
奈良文化財研究所	2	3	2	3	
合計	3	4	2	3	

【国際協力事業の実施件数】（件）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	5	6	5	5	

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
28年度	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力
	保存修復技術の国際的応用に関する研究
	在外日本古美術品保存修復協力事業
	国際研修
29年度	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力
	保存修復技術の国際的応用に関する研究
	在外日本古美術品保存修復協力事業
	国際研修
30年度	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力
	保存修復技術の国際的応用に関する研究
	在外日本古美術品保存修復協力事業
	国際研修
元年度	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力
	保存修復技術の国際的応用に関する研究
	在外日本古美術品保存修復協力事業
	国際研修
奈良文化財研究所	
28年度	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究
	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査
	ユネスコアジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力
29年度	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究
	カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復
	ユネスコアジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力
30年度	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究
	カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復
	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力

元年度	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（ユネスコ等）
	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（イギリス等）
	文化財保護に関する国際協力の推進
	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業
	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	
28年度	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究（ODA ユネスコ補助金・寄附金（文化財保存活用基金））
29年度	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
30年度	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究
元年度	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

中期目標

- ・ 研究の進展や行政事務の効率化等に資することを目的として、文化財に関する情報及び図書・雑誌等を収集・整理し、公開すること。
- ・ 調査研究成果を刊行物、講演会等を通じて広く公表するとともに、平城宮跡資料館・飛鳥資料館等の公開施設において公開すること。なお可能な限り、調査研究に関する論文等について、学術情報リポジトリ等としてウェブサイトでの公開に努めること。

中期計画

- ① 文化財情報基盤の整備・充実
文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。なお、文化財に関するデータベースの公開件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
- ② 調査研究成果の発信
文化財に関する調査研究成果を定期刊行物や公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多角的に発信する。また、ウェブサイトにおいては、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。なお、定期刊行物等の刊行件数及び講演会等の開催回数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。
- ③ 展示公開施設の充実
平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。なお、公開施設における特別展・企画展の開催件数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成する。

実績

東京文化財研究所及び奈良文化財研究所において、文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査研究成果を公開し、国内外の諸機関との連携を強化することにより、広く社会に還元する取り組みを実施した。

- ① 文化財情報基盤の整備・充実
文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関するアーカイブの拡充に取り組んだ。(東文研)(奈文研)
- ② 調査研究成果の発信
文化財に関する調査研究成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多角的に発信することができた。(東文研)(奈文研)
- ③ 展示公開施設の充実
「平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開」においては、各年度、各館の展示等の充実と、来館者の理解を促進することができた。30年度には、奈良文化財研究所新庁舎の完成に合わせ、研究所業務を紹介する夏期企画展を平城宮跡資料館にて開催するなど、各館・室で時期に適った企画を実施した。(奈文研)

【閲覧室開室日数】(日)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	137	137	137	125	
奈良文化財研究所	243	183	219	198	

【閲覧室利用人数】(人)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	923	931	1,070	988	

奈良文化財研究所	475	380	295	278	
----------	-----	-----	-----	-----	--

【文化財資料受入総数】(件)

東京文化財研究所	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
図書	114,509	117,696	121,599	124,229	
雑誌	158,763	162,609	164,256	166,976	
その他	36,348	37,722	44,814	46,169	
合計	309,620	318,027	330,669	337,374	

【文化財資料受入総数】(件)

奈良文化財研究所	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
図書	361,275	359,584	368,440	377,407	
雑誌	93,623	96,691	99,644	102,616	
その他(*)	—	9,978	17,016	20,229	
合計	454,898	466,253	468,084	480,023	

*奈良文化財研究所においては、その他(図録・報告書等)は図書に含む。

【文化財に関するデータベースの公開件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	22	26	28	30	
奈良文化財研究所	25	31	24	17	

【データベースのデータ件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	1,164,416	1,233,111	1,271,388	1,288,551	
奈良文化財研究所	1,341,997	1,417,962	1,316,283	1,348,102	

【ウェブサイトアクセス件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314	
奈良文化財研究所	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865	

【定期刊行物刊行件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	12	12	12	12	
奈良文化財研究所	10	10	10	10	
合計	22	22	22	22	

【学術リポジトリ公開件数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	1,510	3,454	3,560	3,634	
奈良文化財研究所	4,389	61,861	4,992	5,572	

【講演会等開催数】(件)

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	5	2	2	2	
奈良文化財研究所	12	19	17	13	

合計	17	21	19	15	
----	----	----	----	----	--

【講演会等の来場者数】（人）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
東京文化財研究所	798	357	317	323	
奈良文化財研究所	6,400	4,440	3,986	3,315	
合計	7,198	4,797	4,303	3,638	

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

中期目標

- ・地方公共団体等の職員を対象とした有形文化財・記念物等の保存及び修復に関する研修並びに埋蔵文化財等に関する各種研修について、研修項目、課程等の体系を示し、地方公共団体等の要望を踏まえた研修計画を策定して実施すること。
- ・文化財に関する国・地方公共団体の行政事務や博物館の業務等に関する依頼等について、可能な限り専門的・技術的見地から適切な協力等を行うこと。

中期計画

① 文化財に関する研修の実施

文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。

なお、研修の実施件数及び受講者数については、前中期目標の期間の実績以上を目指す。また、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。

② 文化財に関する協力・助言等

国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。

④ 連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与

巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の防災や被災した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化庁及び地方公共団体、文化財関係各団体等の要望を踏まえつつ、機構として全国的な連携・協力体制の整備に向けて、以下の事業及び関連する調査研究等を行う。

1) 体制づくり

2) 調査研究等の実施

3) 人材育成等の実施

実績

東京文化財研究所、奈良文化財研究所及び文化財活用センターにおいて、我が国の文化財に関する調査研究の中核として、これまでの調査研究の成果を活かし、文化財担当者を対象とした各種研修を実施し、文化財保護に携わる人材を育成する取り組みを行った。

また、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、文化財活用センター及び文化財防災ネットワーク推進室において、我が国全体の文化財の調査研究の質的向上に寄与するため、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行った。

① 文化財に関する研修の実施

文化財に関する研修を実施し、文化財保護に携わる人材の育成に寄与した。「文化財担当者研修」(奈文研)においては、遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修14課程の研修を実施し、延べ199人が受講した(課程数・受講者数などは元年度実績)。研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修を継続して実施することができている。

② 文化財に関する協力・助言等

国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行った。

30年7月に設置した文化財活用センターでは、文化財の保存環境に関する相談窓口を設け、自治体等に対し継続的な支援体制の構築に努めた。

③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

「国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園への協力」（奈文研）及び「文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力」（奈文研）においては、28年の国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の開園に向けて、文化庁と国土交通省の双方と連携し協力した。当研究所の豊富な知見を生かし、四神の館の展示内容について効率よく助言や情報提供を行うことができた。また、キトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営を行うとともに、壁画を季節に合わせて公開した。

④ 連携大学院教育の推進

「東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進」（東文研）及び「京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進」（奈文研）においては、各専門分野に関する講義、実習を通じ、継続して大学院生の研究指導を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に寄与した。

⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与

文化財防災ネットワーク推進室においては、以下の通り、文化財等の防災・救援等へ寄与した。

- ・「体制づくり」においては、地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行うため、文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催した。また、機構各施設が地区分担を行い、自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築を促進した。各地で開催する研修会や講演等を通じ、文化財防災のための地域連携の在り方や防災対策、被災文化財の保全方法など、広範な内容をもって事業の有用性を伝えることができた。そのほか、災害発生時の迅速な救援活動を実現するため、地域間連携・組織間連携のガイドライン策定を行い、元年度に完成させた。推進会議参画団体のための活動ガイドラインの完成をみたことにより、都道府県に対して当推進事業との連携を積極的に推奨することが可能になった。
- ・令和元年10月、台風19号による川崎市市民ミュージアム地下収蔵庫の水没事故に対しては推進会議参画団体のうち10団体が集合して救援活動を行うなど、実践的な成果を挙げるに至った。
- ・「調査研究等の実施」においては、文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を継続して実施した。各施設が取り組んできた特色ある文化財データベースは、データ収集から利用の段階に進みつつあり、平常時・災害発生時の活用が期待される。

【保存担当学芸員研修】

東京文化財研究所	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
件数	1	1	1	1	
受講者数	27	31	30	31	
研修成果活用実績	100	100	100	100	

【埋蔵文化財担当者研修】

奈良文化財研究所	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
件数	15	14	15	14	
受講者数	167	178	211	199	
研修成果活用実績	100	100	100	100	

【専門的・技術的な援助・助言】(件)

東京文化財研究所	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
文化財の収集、保存、展示に関する指導助言（東文研）	11	19	28	24	
無形文化遺産に関する助言	10	22	25	32	
文化財の修復及び整備に関する調	58	60	60	42	

査・助言					
文化財の虫菌害に関する調査・助言	41	42	44	41	
文化財の材質・構造に関する調査・助言	15	14	11	20	
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（東文研）	658	521	428	25	
計	793	678	596	184	
奈良文化財研究所					
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	339	238	273	238	
地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助／地方公共団体等が行う平城京域発掘調査等への協力・援助／地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	45	47	9	32	
地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	13	9	6	10	
被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力／東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力／地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	8	59	13	11	
計	405	353	301	291	
文化財活用センター					
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力（文化財活用センター）	—	—	53	134	
計	—	—	53	134	
合計	1,198	1,031	950	609	

IV 業務運営の効率化に関する事項

1. 業務改善の取組

中期目標

(1) 組織体制の見直し

組織の機能向上のため、不断の組織・体制の見直しを行うものとする。特に、第25回世界博物館大会(2019年ICOM京都大会)及び2020年東京大会の開催等を踏まえ、法人の事業全体を通じて、横断的に国際業務を推進する体制の整備に努めることとする。

(2) 人件費管理の適正化

給与水準については、公務員の給与改定に関する動向等を踏まえ、国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し検証した上で、その適正化に取り組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。

(3) 契約・調達方法の適正化

契約については、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づく取組を着実に実施し、「調達等合理化計画」に沿って、一層の競争性、公正性及び透明性の確保に努め、契約の適正化を推進すること。

(4) 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、コピー用紙等の消耗品や役務について、共同して調達する取組を年度計画等に具体的な対象品目等を定めた上で進めるものとする。

(5) 一般管理費等の削減

「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」(平成25年12月24日閣議決定)等を踏まえ、国民に対して提供するサービスの質の維持向上に十分配慮しつつ、自主的・戦略的な業務運営を行い、最大限の成果を挙げていくために、調達の合理化を推進するなど一層の業務の効率化を推進することとする。具体的には、文化財購入費等効率化になじまない特殊要因を除き、中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を図ることとする。

中期計画

(1) 組織体制の見直し

組織の機能向上のため、組織・体制等の見直しを行う。特に、2019年ICOM京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、機構の事業全体を通じて、各施設横断的に国際業務を戦略的に推進する体制を整備する。

(2) 人件費管理等の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

(3) 契約・調達方法の適正化

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づき、引き続き取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行い、随意契約によることができる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施する。

(4) 共同調達等の取組の推進

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺の他機関等との共同調達等の取組を推進する。

(5) 一般管理費等の削減

中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項(2)及びⅨ4.に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。このため、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にア

ウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

- ①機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化
- ②計画的なアウトソーシング
- ③使用資源の減少
 - ・省エネルギー
 - ・廃棄物減量化
 - ・リサイクルの推進

実績

(1) 組織体制の見直し

2019年 ICOM 京都大会及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた組織・体制等の見直しを実施した。2019年 ICOM 京都大会においては、人員及び会場の提供、関連イベントの実施に当たって積極的な協力をを行い、開催地の国立博物館としての役割を十分に果たすことができた。

(2) 人件費管理等の適正化

給与については、独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢（国家公務員の給与水準）に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に決定している。

給与水準は事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、適正な水準である。

給与水準の対国家公務員指数（国家公務員の給与水準を100とした場合）の推移】

事項	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事務・技術職員	98.7	98.5	99.2	97.4	
研究職員	99.8	99.7	98.1	98.1	

(3) 契約・調達方法の適正化

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、引き続き調達等の合理化の取組を着実に実施し、文化財の購入等、随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行った。また、随意契約によることのできる事由を会計規定等において明確化し、公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を実施している。主な取り組みは以下のとおり。

- ・外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、各年度に2回、機構が締結した契約の点検・見直しを行った。
- ・東京国立博物館（レストラン、自動販売機、平成館ラウンジ飲食店、黒田記念館カフェ、ミュージアムショップ）、京都国立博物館（南門カフェ、平成知新館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（飛鳥資料館ミュージアムショップ、平城宮跡資料館ミュージアムショップ）については企画競争を実施した。
- ・機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。
- ・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10日間以上」から自主的措置として20日間以上確保するように引き続き努めた。
- ・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施した。

【一般競争入札件数】

年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
件数	155件	129件	136件	186件	

(4) 共同調達等の取組の推進

各施設の業務内容や地域性を考慮しつつ、コピー用紙等の消耗品や役務について、周辺他機関等との共同調達等の取組を推進した。主な取り組みは以下のとおり。

- ・本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所について、引き続き上野地区（東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館）における再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買、便器洗浄機器賃貸借、複写機賃貸借及び保守業務の共同調達を実施した。
（再生 PPC 用紙、トイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、東京藝術大学、国立科学博物館、国立西洋美術館。便器洗浄機賃貸借：東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館。複写機賃貸借及び保守業務：本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所、国立科学博物館）
- ・京都国立博物館では、京都国立近代美術館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所と共同調達を実施した。（PPC 用紙及びトイレットペーパー）
- ・奈良国立博物館では、トイレットペーパーについて、近隣の共同調達契約を調査し、業者と交渉した結果、共同調達と同額又はそれ以下に納入金額を引き下げて調達を実施した。共同調達については、事務負担等を考慮し、現状では見合わせているが、近隣の共同調達契約の動向に応じて、必要があれば共同調達への参加について今後も検討を進めることとしている。
- ・九州国立博物館では、九州地区の大学と PPC 用紙及びトイレットペーパー及びガソリンカードの利用について共同調達を実施した。
- ・奈良文化財研究所では、PPC 用紙及びトイレットペーパーについて、近隣機関の共同調達における納入金額と同額にて独自に調達を実施した。その他の物品の共同調達については、引き続き検討を進める。

（5）一般管理費等の削減

一般管理費等の削減について、引き続き、事務、事業、組織等の見直しや、サービスの質を維持した上で外部委託により経費削減が可能な業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る取り組みを実施した。主な取り組みは以下のとおり。

①機構内の共通な事務の一元化による業務の効率化

- ・共通な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web 給与明細システムの運用を継続した。
- ・業務の効率的な運用と情報共有化のため、機構共通の業務システム及び基盤となるネットワークの運用を継続した。特に情報共有については、グループウェア上の機構内全職員に共有すべき重要情報を整理統合したコンテンツ「機構内共有情報」を 29 年 3 月 27 日に設け、「行事予定一覧」や「機構内研究関連情報」等の共有を効率的かつ分かりやすく行える体制とし、情報の共有化の推進と強化を行った。

②計画的なアウトソーシング

- ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について民間委託を実施した。
- ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託した。
- ・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、託児業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。

③使用資源の減少（省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進）

- ・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転、照明の LED 化の推進等を行った。
- ・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議での iPad 活用による文書のペーパーレス化を実施した。
- ・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集、リサイクル業者への古紙売り払い、再生紙の発注等）
- ・使用資源の推移等

日常の節電節水の周知徹底、冷暖房の省エネ運転等を実施したが、以下の外的要因により、元年度の使用量は、電気は 30 年度比 1.58%増、ガスは 30 年度比 5.19%増であった。

- ・電気使用量

元年度は、奈良文化財研究所において、本庁舎移転に伴う電気使用量の増加があった。

・ガス使用量

元年度は、奈良文化財研究所において、本庁舎移転に伴う空調用機器運転に係る使用量の増加があった。

【一般管理費・業務経費推移】(千円)

事項	基準値	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
一般管理費 (物件費)	1,079,716	831,109	753,613	1,277,028	974,244	
業務経費費 (物件費)	6,580,389	5,417,416	6,158,978	5,955,580	5,964,637	

2. 業務の電子化

中期目標

文化財機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、IT技術を活用した業務の効率化に努める。

中期計画

機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、IT技術を活用した業務の効率化に努める。

実績

機構に関する情報の提供、オープンデータの推進、業務・システムの最適化等を図ることとし、IT技術を活用した業務の効率化に努めた。とりわけ、30年7月1日に発足した文化財活用センターにおいては、「e国宝」「ColBase」の運用を継続して行い、政府の方針に沿ったオープンデータの推進に取り組んでいる。

また、機構ウェブサイト及び機構共通事務システムの運用を継続するとともに、必要なシステム更新・機能追加を適宜行い、今後の運用に向けた各種対応を進めた。主な取り組みは以下のとおり。

- ・ 機構内の博物館4館の各館所蔵品データを横断的に検索する「国立博物館所蔵品統合検索システム」(略称: ColBase)を29年3月27日に公開した。本システム上のコンテンツの利用については、「政府標準利用規約(第2.0版)」に準拠、商業利用を含む二次利用を可能とし、また国際的に普及しているクリエイティブコモンズ(NPO法人)によるCC-BYライセンスと互換性があるものとなった。これにより政府が推進するオープンデータ政策にも合致することとなった。
- ・ 7月1日発足の文化財活用センターへシステムの運用を引き継ぎ、政府の方針に沿ってオープンデータを推進するため、「e国宝」「ColBase」の運用を継続した。
- ・ 機構共通の各事務システム(グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」)及びその基盤ネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」を継続運用した。
- ・ グループウェア「サイボウズ」のサーバーを更新した。(31年2月22日)

3. 予算執行の効率化

中期目標

独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。

中期計画

運営費交付金収益化基準として業務達成基準が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と

実績を管理する体制を構築する。

中期計画

予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化並びに積極的な自己収入の増加に向けた取組を踏まえた予算及び収支計画による運営を行う。

1. 予算（中期計画の予算） 別紙1のとおり
2. 収支計画 別紙2のとおり
3. 資金計画 別紙3のとおり

V 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、20億円

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

VI 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

なし。

VII 重要な財産の処分等に関する計画

なし。

VIII 剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した時は、次の経費等に充てる。

1. 文化財の購入・修理
2. 調査研究、出版事業の充実
3. 展覧事業の充実
4. 来館者サービス、情報提供の質的向上
5. 国際協力
6. 老朽化した施設設備への対応の充実

（別紙1）予算（中期計画の予算）

平成28年度～平成32年度 予算

（単位：百万円）

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
収 入			
運営費交付金	29,448	12,076	41,524
施設整備費補助金	22,923	1,530	24,453
展示事業等収入	7,049	325	7,374
受託収入	143	2,741	2,884
その他寄附金等	1,690	62	1,752
計	61,253	16,734	77,987
支 出			
管理経費	6,599	1,850	8,449
うち人件費	2,984	1,132	4,116
うち一般管理費	3,615	718	4,333
業務経費	29,898	10,551	40,449
うち人件費	7,635	4,963	12,598
うち収集保管事業費	12,641	0	12,641
うち展覧事業費	5,588	0	5,588
うち教育普及事業費	468	0	468
うち博物館研究事業費	3,411	0	3,411
うち博物館支援事業費	155	0	155
うち基礎研究事業費	0	1,524	1,524

うち応用研究事業費	0	1,341	1,341
うち国際遺産保護事業費	0	810	810
うち情報公開事業費	0	1,851	1,851
うち研修協力事業費	0	62	62
施設整備費	22,923	1,530	24,453
受託事業費	143	2,741	2,884
その他寄附金等	1,690	62	1,752
計	61,253	16,734	77,987

(別紙2) 収支計画

平成28年度～平成32年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物 館等	文化財研究 所等	合 計
費用の部	28,393	15,255	43,648
経常経費	28,329	15,215	43,544
管理経費	6,331	1,789	8,120
うち人件費	2,984	1,132	4,116
うち一般管理費	3,347	657	4,004
事業経費	19,768	12,938	32,706
うち人件費	7,635	4,963	12,598
うち収集保管事業費	1,382	0	1,382
うち展覧事業費	5,173	0	5,173
うち教育普及事業費	433	0	433
うち博物館研究事業費	3,157	0	3,157
うち博物館支援事業費	155	0	155
うち基礎研究事業費	0	1,410	1,410
うち応用研究事業費	0	1,242	1,242
うち国際遺産保護事業費	0	749	749
うち情報公開事業費	0	1,714	1,714
うち研修協力事業費	0	57	57
うち受託事業費	143	2,741	2,884
うちその他寄附金等	1,690	62	1,752
減価償却費	2,230	488	2,718
財務費用	0	8	8
臨時損失	64	32	96
収益の部	28,410	15,227	43,637
運営費交付金収益	17,707	11,607	29,314
展示事業等の収入	6,555	325	6,880
受託収入	143	2,741	2,884
その他寄附金等	1,690	62	1,752
資産見返負債戻入	2,230	488	2,718
財務収益	4	0	4
臨時利益	81	4	85
純利益	17	△28	△11
目的積立金取崩	0	0	0
総利益	17	△28	△11

(別紙3) 資金計画

平成28年度～平成32年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物 館等	文化財研究 所等	合 計
資金支出	61,257	16,734	77,991
業務活動による支出	25,422	16,258	41,680

投資活動による支出	35,835	468	36,303
財務活動による支出	0	8	8
資金収入	61,257	16,734	77,991
業務活動による収入	38,330	15,204	53,534
運営費交付金による収入	29,448	12,076	41,524
展示事業等による収入	7,049	325	7,374
受託収入	143	2,741	2,884
その他寄附金等	1,690	62	1,752
投資活動による収入	22,923	1,530	24,453
施設整備費補助金による収入	22,923	1,530	24,453
財務活動による収入	4	0	4
受取利息等による収入	4	0	4

(別紙4) 施設設備に関する計画

施設設備の内容	予 定 額	財 源
・ 東京国立博物館 仮収蔵庫等整備及び本館リニューアル工事 (平成28年度～32年度)	18,657 18,612	施設整備費補助金
柳瀬荘黄林閣屋根茅葺工事 (28年度)	45	
・ 京都国立博物館 本館収蔵庫等改修及び本館免震改修等工事 (平成28年度～32年度)	4,266 4,266	施設整備費補助金
・ 奈良文化財研究所 本庁舎建替工事 (平成28年度～29年度)	1,530 1,530	施設整備費補助金

V 財務内容の改善に関する事項

1. 自己収入拡大への取組

中期目標

展覧事業のサービスの向上に努め、安定的な自己収入の確保を図るとともに、業務の質の向上等に必要な資金の充実を図るため、会員制度の充実、寄附金等の外部資金の募集、保有財産の有効利用の推進、競争的資金の獲得等多様な取組を進めることとし、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得るものとする。

中期計画

展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

実績

機構全体として、自己収入の増加に向けた積極的な取り組みを進めた結果、自己収入及び寄付金等のいずれも、毎年度、目標値を大きく上回る結果となった。

自己収入においては、目標値 1,538,510 千円のところ、29 年度実績は 2,260,173 千円であり、146.9%増となった。寄付金等においては、目標値 439,574 千円のところ、30 年度実績は 884,196 千円であり、201.1%増となった。

博物館・研究所の本来業務以外にも、会議・セミナーのための講堂・会議室の貸与や、建物・庭園等を映画等のロケーションとして貸出すなど部外者に対しても積極的な貸出しを行い、適切に保有資産の有効利用を推進した。2 年度も同様に適正に管理し、本来業務に支障のない範囲で有効活用に努める予定である。

【自己収入実績額】（単位：千円）

	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
自己収入目標額	1,538,510	1,538,510	1,538,510	1,538,510	
自己収入実績額	1,714,563	2,260,173	1,917,262	2,016,303	

【寄付金等収入実績額】（単位：千円）

	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
寄付金等収入目標額	439,574	439,574	439,574	439,574	
寄附金等収入実績額	753,812	732,210	827,718	884,196	

【施設の有効利用件数推移】（件）

	28年度			29年度			30年度			元年度		
	総件数	うち有償	うち無償	総件数	うち有償	うち無償	総件数	うち有償	うち無償	総件数	うち有償	うち無償
東京国立博物館	747	529	218	866	581	285	781	485	296	680	457	223
京都国立博物館	105	93	12	122	86	36	165	143	22	196	164	32
奈良国立博物館	113	27	86	111	19	92	112	18	94	166	84	82
九州国立博物館	355	116	239	280	96	184	328	75	253	349	77	272
東京文化財研究所	185	9	176	200	10	190	198	13	185	145	7	138
奈良文化財研究所	296	52	244	347	35	312	247	29	218	224	19	205
計	1,801	826	975	1,926	827	1,099	1,831	763	1,068	1760	808	952

2. 固定的経費の節減

中期目標

管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。

中期計画

管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うことにより、固定的経費の節減を図る。

実績

「IV 業務運営の効率化に関する事項 1.（5）一般管理費等の削減」に同じ。

3. 決算情報・セグメント情報の充実等

中期目標

文化財機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。

中期計画

機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。

実績

各年度決算において、「独立行政法人会計基準」（27年1月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。

- ・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。
- ・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。

4. 保有資産の処分

中期目標

保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成26年9月2日付け総管査第263号総務省行政管理局通知）に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行うこととする。

中期計画

保有資産の見直し等については、「独立行政法人の保有資産の不要認定に係る基本視点について」（平成26年9月2日付け総管査第263号総務省行政管理局通知）に基づき、保有の必要性を不断に見直し、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

実績

該当なし

VI その他業務運営に関する事項

1. 内部統制

中期目標

法令等を遵守するとともに、コンプライアンスの徹底、経営層による意思決定、内部規定整備・運用、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境を整備・運用し不断の見直しを行う。また、整備状況やこれらが有効に機能していること等について定期的に内部監査等によりモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制を強化する。

中期計画

コンプライアンスの徹底、理事長のマネジメント強化、リスクマネジメント等を含めた内部統制環境や規定を整備し、運用する。また、内部監査等により定期的にそれらの整備状況・有効性をモニタリング・検証するとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、必要に応じて内部統制に関する見直しを行う。さらに、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取組の改善を行う。

実績

- 法令等を遵守し、事業を実施した。また、以下の通り内部統制環境の整備・運用を継続して取り組んでいる。
- ・コンプライアンスの徹底を図るべく、関係諸規程の整備を進めている。
 - ・機構の業務に関する重要事項については役員会で審議し、年8回開催することにより、業務の適正かつ円滑な執行を図ることができている。また、役員会の決定事項は、法人内グループウェアを運用し、役職員に対するミッションの周知を図っている。
 - ・機構の管理運営の重要事項に当たっては、毎年度開催している運営委員会等により助言を受け、理事長のトップマネジメントを補助する役割を果たしている。
 - ・役員会や各種会議を通じて、情報の収集やリスクを把握に努め、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握をしている。
 - ・監事による業務及び会計にかかる監査を定期的実施し、監査結果を各種事業に反映させている。

2. その他

中期目標

(1) 自己評価

外部有識者を含めた客観的な自己評価を行うこととし、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる

ものとする。

(2) 情報セキュリティ対策

情報セキュリティ対策については、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、情報セキュリティ・ポリシーを適時適切に見直すとともに、これに基づき情報セキュリティ対策を講じ、情報システムに対するサイバー攻撃への防御力、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。

また、対策の実施状況を毎年度把握し、PDCAサイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。

中期計画

2. その他

(1) 自己評価

外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業に関する自己評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。

(2) 情報セキュリティ対策

情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。

また、自己点検、監査を通じて情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善する。

3. 施設設備に関する計画

施設設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙4のと通りの計画に沿った整備を推進する。

4. 人事に関する計画

(1) 方針

- ① 中長期的な人事計画等を策定し、理事長の裁量によって一定数の職員を配置できる仕組みを導入する。また、国家公務員の制度改革や社会一般の動向を勘案しつつ、職員個々の能力向上を通じて、組織のパフォーマンスを高めるための制度を導入する。
- ② 性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力、適性に応じた採用及び人事配置を行い、職員の多様な働き方を促進する。
- ③ 多様性を受容できる組織風土の醸成を図るため、例えば女性や障がいのある方の活躍を推進するなどし、それを支える就業環境の整備や教育・研修を実施する。
- ④ 職員のキャリアパスの形成に寄与するために、研修・人事交流等を多角的に企画・立案する。特にグローバル化・多様化する社会に対応できる人材の育成を図る。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

中期目標期間中の人件費総額見込額

13,644百万円

但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

5. 中期目標期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。

6. 積立金の使途

前中期目標期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定

損益影響額等に係る会計処理に充当する。

実績

2. その他

(1) 自己評価

外部評価委員会及び運営委員会を開催し、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価やその結果を組織、事務、事業等の改善に反映させた。

- ・外部有識者が委員となっている外部評価委員会を毎年度3回(部会2回、総会1回)開催し、外部有識者による評価を実施した。また、外部有識者の意見等を踏まえ、「自己点検評価書」を作成し、文部科学大臣に提出した。
- ・毎年度、運営委員会を開催し、機構の管理運営の重要事項について、理事長への助言がなされた。

(2) 情報セキュリティ対策

中期計画通り、政府機関の統一基準を踏まえた規程・体制にて運用を継続し、必要な改正等を行うとともに、情報セキュリティ対策を適切に実施した。

- ・情報システム・ネットワークにおける情報セキュリティ対策については「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準(平成26年度版)」準拠の情報セキュリティ関係規程等に基づき、政府や関係機関からの情報に注視しながら適宜必要な対策を講じた。機構内各施設における情報セキュリティ対策の実施にあたっては、NICH-CERT連絡会にて情報共有、検討を行った。

3. 施設設備に関する計画

以下の通り、施設設備に関する計画に沿った整備を推進した。

(東京国立博物館)

- ・28年度当初予算より、仮設収蔵庫建設に伴う建設用地の埋蔵文化財発掘調査を実施し29年3月に完了した。また、仮設収蔵庫等整備は、29年11月より建物本体工事を実施し、令和元年10月に竣工した。
- ・本館空調機整備他工事は、2年1月に竣工した。
- ・本館防水他改修工事は、2年3月に竣工した。
- ・柳瀬荘黄林閣(重要文化財)の茅葺屋根の部分葺き替え改修を実施した(29年2月完了)。

(京都国立博物館)

- ・文化財保存修理所燻蒸設備の更新工事を実施した。(28~29年度)
- ・東収蔵庫の改修工事を実施した。(28~30年度)。
- ・本館耐震改修工事を行うための埋蔵文化財調査にかかる予算を確保し、30年度は建物外周部の調査を行い、2年度は本館北側建物内外の調査を行う予定である。(30年度)

(奈良国立博物館)

- ・なら仏像館の観覧環境及び展示機能充実のため、内装、照明・空調設備及び展示ケース・展示台を更新した。(27年度予算を繰り越し、28年4月末に竣工)

(奈良文化財研究所)

- ・新庁舎建設工事の変更契約を28年5月に行い、着工した。新庁舎建設工事が平成30年3月に完成した。
- ・30年度、仮庁舎から新庁舎への移転、仮庁舎解体及び現状復旧を実施した。
- ・30年度、飛鳥資料館の冷暖房機用煙突について、飛鳥資料館煙突(冷暖房機用)取替工事で新たに煙突を設置し、既存の煙突を封じ込めた。

4. 人事に関する計画

(1) 方針

- ・事務系職員の人事について、各施設・交流機関との協議により、人事交流も含めた人事計画の策定を推進した。研究系職員の人事についても、人事選考委員会を通じた採用の実施や理事長の決定による人事異動など、組織としての包括的な人事計画に向けて取り組んでいる。
- ・中期計画に沿って階層別研修を実施することで、職員のキャリアパスに寄与することができた。2年度以

降も引き続き、職員のキャリアパスの形成のため、各種研修や人事交流を企画・立案・実施していく。

(2) 人員に係る指標

- ・ II 1. (2) 人件費管理等の適正化に関する事項に取り組んだ。

5. 中期目標期間を超える債務負担

該当なし

6. 積立金の使途

該当なし